

科目名	情報処理		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	神宮 久香	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	<p>コンピュータの発達に伴い、情報処理に関する知識は必須となっており、社会では情報処理の理解できる人材が要望される。この科目では、情報処理の基本となる用語やコンピュータの基本的な仕組みを学習し実践的な取得を行う。</p> <p>* 実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。</p>		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	インターネット(WWW、電子メール)の利活用、事務系ソフト(Word、Excel)の基本操作とソフトを利用した文書作成ができる。また、幼稚園教諭二種免許・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	情報処理入門 近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	情報とは	情報化社会、データの書類
第2回目	コンピュータシステム	コンピュータの歴史
第3回目	コンピュータシステム	パソコンの歴史
第4回目	コンピュータシステム	パソコンの種類
第5回目	コンピュータシステム	コンピュータの仕組み
第6回目	コンピュータシステム	ソフトウェア
第7回目	コンピュータシステム	コンピュータの利用形態
第8回目	コンピュータシステム	コンピュータの活用
第9回目	コンピュータと ネットワークの脅威	情報化社会の問題点
第10回目	オフィススイートの 導入と利用	パソコンの基礎
第11回目	オフィススイートの 導入と利用	日本語ワープロソフトの基礎
第12回目	オフィススイートの 導入と利用	表計算ソフトの基礎
第13回目	オフィススイートの 導入と利用	コンピュータグラフィックス
第14回目	オフィススイートの 導入と利用	インターネット
第15回目	まとめ	まとめと科目試験対策

科目名	教育原理		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	湯本 孝	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	教育の本質と意義を理解し教育に関する基礎的な概念と知識の習得を図ることを目的とする。教育をめぐる課題をより幅広く柔軟な視野で自分なりに考え実践していくようになることが目的である。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	教育と保育の関係について理解する。 また、幼稚園教諭二種免許・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	保育のための教育原理 ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20% 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	授業終了後には、必ず復習をし、内容理解に努めること。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	教育とは何か	教育という概念・教育の目的・教育と家族
第2回目	幼児教育思想の歴史	「子ども観」の今昔・近代幼児教育思想の源流・日本の幼児教育と倉橋惣三
第3回目	教育制度の成立と幼児教育の展開	江戸期における子どもの教育
第4回目	教育制度の成立と幼児教育の展開	近代教育制度の成立と幼児教育の普及
第5回目	教育制度の成立と幼児教育の展開	大正新教育と幼稚園令の制定
第6回目	戦後日本における教育の再出発	戦時下の幼稚園教育・新たな教育制度の成立
第7回目	教育の法規と制度の基盤	戦後日本の教育法規の基礎・学校とは
第8回目	教育の法規と制度の基盤	教育行政・「乳幼児期の教育」の制度
第9回目	諸外国における教育・保育	諸外国の学校体系・乳幼児期の教育への国際状況
第10回目	教育の方法	教育の基礎・一斉教授と子どもの「経験」・求められる能力の変化
第11回目	教育の内容	教育内容の基礎・教育内容の実際・学習指導要領・乳幼児期の教育内容
第12回目	教育の計画と評価	教育の計画、評価・計画と評価の実際
第13回目	現代社会と生涯学習	生涯学習の概念と理念・地域社会における生涯学習の展開
第14回目	教育／保育現場をめぐる現代的課題	学びの場の多様化・教員養成／保育者養成・教育の情報化
第15回目	連携による教育・保育	連携の考え方・教育、保育現場と地域との連携

科目名	言葉		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	湯本 孝	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を学習する。授業の前半では乳幼児における段階的なことばの発達過程を追い、その特徴を学ぶ。授業後半ではコミュニケーションやことばに関する障害を概観し、特性のある乳幼児へのかかわり方を扱っていく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①乳幼児期のことばの発達過程を理解する。 ②コミュニケーションに関する障害について理解し、特性のある乳幼児とのかかわり方を知る。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	【新訂】子どもと言葉 萌文書林 幼稚園教育要領解説 フレーベル館		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20% 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	授業終了後には、必ず復習をし、内容理解に努めること。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業概要説明 言葉の役割	言葉の意義と機能
第2回目	言葉の発達過程①	言葉の準備段階①
第3回目	言葉の発達過程②	言葉の準備段階②
第4回目	言葉の発達過程③	乳児からの言葉のアプローチ
第5回目	言葉の発達過程④	養育者からの言葉のアプローチ
第6回目	言葉の発達過程⑤	乳幼児期の心の諸機能の発達①
第7回目	言葉の発達過程⑥	乳幼児期の心の諸機能の発達②
第8回目	言葉の障害	構音障害、吃音、特異的言語発達障害、 自閉症についての基礎理解
第9回目	言葉と社会問題	子どもを取り巻く環境の変化と相互交渉
第10回目	障害のある乳幼児とのかかわり①	絵カード製作①
第11回目	障害のある乳幼児とのかかわり②	絵カード製作②
第12回目	児童文化財	童話と保育
第13回目	児童文化財②	レポート作成①(童話と保育)
第14回目	児童文化財③	レポート作成②(童話と保育)
第15回目	試験対策	定期試験対策

科目名	人間関係		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	正田 愛理	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	<p>子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学ぶ。また、人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。</p> <p>*実習・スクーリング等により内容に一部変更あり</p>		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	領域「人間関係」に関する保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。また、幼稚園教諭二種免許・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	幼児と人間関係-保育者をめざす- 同文書院		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	時代的変遷	領域「人間関係」の社会的背景
第2回目	発達課題	子どもの発達と人間関係
第3回目	保育3法令	領域「人間関係」のねらいと内容 「幼稚園教育要領」を中心に
第4回目	集団保育	保育者のかかわり方と集団づくり
第5回目	共同性	対話から生まれる「協同的な学び」 遊びを通した「個」と「集団」の成長
第6回目	ビデオカンファレンス	「協同的な学び」の保育実践例を映像資料から学ぶ
第7回目	子どもの友人関係	幼児教育・保育における子ども同士の関係
第8回目	保育の質	子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価
第9回目	インクルーシブ保育	特別な支援を必要とする子どもの援助
第10回目	家庭支援	子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点
第11回目	共同養育	現代の子育て家庭が抱える課題を映像資料から学ぶ
第12回目	幼小接続	幼児教育・保育と小学校との接続の課題 人間関係の視点から
第13回目	包括的性教育	幼児教育・保育における性をめぐる課題
第14回目	グローバル化	多文化共生社会における幼児教育・保育の課題
第15回目	まとめ	これまでのまとめと定期試験対策

科目名	社会福祉		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	今日の日本では、子どもの貧困や、障害を抱える子ども、養育に問題がある家庭など、様々な子どもの問題がある。それらに対して、どのように理解し、対応していくかが保育者には求められるので、そのため必要な社会福祉の意味や歴史、考え方などの基本を学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉法に位置付けられる保育を、社会福祉という大きな枠の中で理解する。</li> <li>・社会福祉が、すべての人々に必要なものであることを理解する。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	コメディカルのための社会福祉概論 第4版 講談社 社会福祉用語辞典 第9版 ミネルヴァ出版		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20%、2/3以上の出席が最低のラインとする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	受講にあたっては、テキスト、用語辞典、ノートを必ず用意すること。 欠席した場合は、そのときの授業のノートを必ず写しておくこと(コピー不可)。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	社会福祉の意義①	「世界がもし100人の村だったら」から考える幸せ
第2回目	社会福祉の意義②	福祉の意味と日常生活要求
第3回目	社会福祉の意義③	社会福祉の意味(最広義、広義、狭義)
第4回目	イギリス社会福祉史①	中世、救貧法の時代、「オリバー・ツイスト」と新救貧法
第5回目	イギリス社会福祉史②	COS、セツルメント運動、救貧法の限界と近代的な構想
第6回目	イギリス社会福祉史③	ベヴァリッジ報告、近代的社会福祉の確立、地域福祉
第7回目	日本社会福祉史①	明治から第2次世界大戦前の貧困対策
第8回目	日本社会福祉史②	第2次世界大戦後の社会福祉①
第9回目	日本社会福祉史③	第2次世界大戦後の社会福祉②
第10回目	社会保険	社会保険の種類と生活にもつ意味
第11回目	生活保護	生活保護の原理・原則・扶助の種類
第12回目	障害者福祉	障害者総合支援法による障害者の福祉サービス
第13回目	高齢者福祉	高齢者のための福祉に必要なこと
第14回目	社会福祉の理念	ノーマライゼーション、バリアフリー、QOL
第15回目	試験対策	第1回～第14回の振り返り

科目名	教職概論		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	湯本 孝	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	教育について自分なりの考え方を持ち、教育観を構築できるように、教師や学校制度の歴史について学んでいく。また、教員としての専門性や資質・能力を身につけることを通して、教職に対する理解を深めていく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	① 教育とは何かを自分なりに考え、自分の教育観を持つ。 ② 教員の職務内容を知り、必要な資質・能力を身に付ける		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	<三訂>教職入門－未来の教師に向けて 萌文書林 幼稚園教育要領解説 フレーベル館		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20% 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	授業終了後には、必ず復習をし、内容理解に努めること。 感染症等の状況によっては、遠隔授業として実施することがある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業概要説明 教育とは何か	ルソー、フレーベル、ソクラテスの教育観①
第2回目	教育とは何か 教職とは何か	ルソー、フレーベル、ソクラテスの教育観② 教員に求められる資質・能力
第3回目	現代社会の子ども	子どもを取り巻く環境の変化
第4回目	保育者の職務内容	幼稚園教諭の専門性
第5回目	カウンセリングマインド①	カウンセリングマインドの原則
第6回目	カウンセリングマインド②	レポート作成①(カウンセリングマインド)
第7回目	カウンセリングマインド③	レポート作成②(カウンセリングマインド)
第8回目	小学校での学習	小学校の役割 教員の資質・能力、小学校の授業
第9回目	学校教職員の職務内容 教員の身分と服務義務	各種学校教職員の職務内容 教職員の職務上の義務、身分上の義務
第10回目	学校と教員の歴史	学校制度の創設～戦後までの学校制度と教員の役割
第11回目	教員の新たな役割	グローバル化と情報化に対応した教員の役割
第12回目	教員の役割の変遷①	レポート作成①(教員の役割の変遷)
第13回目	教員の役割の変遷②	レポート作成②(教員の役割の変遷)
第14回目	教職の専門性と研修	研修の必要性と意義
第15回目	試験対策	近畿大学九州短期大学科目試験対策

科目名	声楽 I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	黒崎 朋子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	保育の現場で必要な「弾き歌い」をするためには、無理なく通る声で歌えることや何があっても音楽を止めない強い心が大切。1年次には恥ずかしがらずに楽しく大きな声で元気よく歌うことに慣れていきましょう。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>喉に負担のない声の出し方を学び、音程感・リズム感を身に付ける</li> <li>「幼児と音楽表現 記録表」の声楽課題を大きな声で歌えるようにする</li> <li>ピアノの授業で行う弾き歌いでも大きな声で歌えるようになる</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	音楽（声楽教本） 近畿大学九州短期大学 保育名歌ピアノ曲集 ドレミ楽譜出版社 適宜講師の用意した課題		
成績評価の方法・基準	出席率 50% 授業態度 50%		
履修に当たっての留意点	授業は予習・復習が必須。毎日練習することを習慣にしてください。授業内容は進度によって変更もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業説明 声を出してみよう	呼吸・発声
第2回目	演習	コールユーブンゲン 1、 2
第3回目	演習	コールユーブンゲン 3、 4
第4回目	演習	コールユーブンゲン 5、「あくしゅでこんにちは」
第5回目	演習	コールユーブンゲン 6、「おかたづけ」
第6回目	演習	コールユーブンゲン 9、「おべんとう」
第7回目	演習	コールユーブンゲン 10、「おかえりのうた」
第8回目	演習	コールユーブンゲン 11、「まつぼっくり」
第9回目	演習	コールユーブンゲン 12、「大きな栗の木の下で」
第10回目	演習	コールユーブンゲン 13、「はをみがきましょう」
第11回目	演習	コールユーブンゲン 14a、 14b
第12回目	演習	コールユーブンゲン 15a、 15b
第13回目	演習	コンコーネ 1、「手をたたきましょう」
第14回目	演習	コンコーネ 2、「かたつむり」
第15回目	演習	総括

科目名	音楽表現		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佐藤奏夢・正田 愛理	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	楽譜の読み方や、演奏する上での約束事を理解すると共に、リトミック教育の場での実践力と基礎を身に付ける。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	音楽表現の基礎を身に着けて、自分で楽譜が読めるようになる		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	音楽(声楽教本・ピアノ教本)近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	授業の中における発表や・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業は講義もあるが、ピアノ等の実践的な表現方法を学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	音・音楽	音の種類・音あそび
第2回目	拍と数	言葉を使い、拍や数のまとまりを経験する
第3回目	譜表と音符	五線を使って
第4回目	動きの基礎練習	音楽に合わせ様々な動きを体験する
第5回目	音符・休符	音符の読み書き・リズム打ち
第6回目	拍子	動きを取り入れ拍の連なりを感じる
第7回目	音程とハンドサイン	声を出して音程を感じる・ハンドサインの活用
第8回目	音階と調	ピアノを使って調を確認(C・G・F・D)
第9回目	速さ・強さに関する表示法	身体表現①
第10回目	曲想・奏法に関する表示法	身体表現②
第11回目	細かい音符とリズムパターン	リズム打ちと表現①
第12回目	リズムカノン	リズム打ちと表現②
第13回目	ボディパーカッション	身体を楽器にして音楽を奏でる
第14回目	創作リズムと発表	音楽作品を創作し発表する
第15回目	まとめ	これまでのまとめ

科目名	幼児の心理学		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	西垣 英恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	心理学の知識を保育に活かしていくために、様々な側面から学んでいく。これから関わる子どもたちを、主に発達という側面から理解し、さらには自分自身を理解することを目的とする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育に関わる心理学の基本的知識を理解し説明することができる。</li> <li>子どもの育ちや発達についての理解を得る。</li> <li>また、幼稚園教諭二種免許・保育士資格の取得を目指す。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	実践に活かす保育の心理学 ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験結果・受講態度・レポートから総合的に判断する。</li> <li>2/3以上の出席を必須とする。</li> </ul>		
履修に当たっての留意点	特になし		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	発達を学ぶ意義	発達を学ぶということ、発達するとは、保育の心理学
第2回目	子どもの発達と環境	遺伝と環境、保育者の関わり
第3回目	発達理論と子ども観・保育観	子ども観、発達理論と発達観
第4回目	身体と運動機能の発育・発達	身体の発育・発達
第5回目	発達を支えるアタッチメント	アタッチメント理論
第6回目	自己と感情・情動の発達	感情の発達、情動制御とその支援
第7回目	社会性の発達	赤ちゃん・子どもにとっての社会、他者理解
第8回目	認知の発達	認知発達、ピアジェの発達理論
第9回目	言語の発達	言葉の発達
第10回目	発達障害と発達	発達障害とその発達、支援
第11回目	虐待から考える発達	子ども虐待、マルトリートメント
第12回目	保育にいかす学習理論	学習理論
第13回目	遊びの発達	遊びの発達と意義
第14回目	乳幼児期の学びの過程と特性	乳幼児期の学びと発達
第15回目	乳幼児期の学びを支える保育	乳児期に育みたい資質、保育実践、保護者への支援

科目名	ビジネスマナー		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実技	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	南山 英之	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	学生と社会人との違いを理解し、ビジネス社会で必要な基本的なマナーを習得することを目的とする。授業では、ビジネス社会を想定し、身だしなみ、言葉遣い、電話応対、来客応対など実務に即した内容を中心に進めていく。※実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ビジネス社会で必要な基本的なマナーを習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	実践ビジネスマナー ウィネット		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び期末テストを考慮し評価する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	テキストの補助教材としてプリント等を配布するため、各自保管用のファイルを用意する。電話応対・来客応対についてはマナー室でロールプレイング形式で行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	エチケットとマナー	身だしなみ
第2回目	挨拶	挨拶の基本・返事
第3回目	動作の基本	正しい姿勢での立ち方・座り方・お辞儀
第4回目	言葉遣い	好感をもたれる話し方・聞き上手になるために
第5回目	言葉遣い	正しい日本語を身につける
第6回目	電話のかけ方・受け方	電話の基本マナー・かけ方・受け方
第7回目	応対のマナー	受付・取次
第8回目	応対のマナー	案内・席次のルール
第9回目	応対のマナー	湯茶
第10回目	応対のマナー	紹介の基本のルール・名刺の取扱
第11回目	応対のマナー	指示の受け方・報告の仕方
第12回目	会社訪問のマナー	面接試験を受けるにあたっての注意事項
第13回目	就職活動に備えて	会社訪問のポイント・企業への電話のかけ方
第14回目	就職活動に備えて	面接時のポイント・質問例
第15回目	就職活動に備えて	面接前に準備すること

科目名	保育総合演習Ⅰ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	正田 愛理・佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	保育士・幼稚園教諭を目指す学生に必要とされる実技面の基礎を取得する。実践力を身に付けるための細かい実技指導（演じ方や子どもに対しての言葉かけ等）を行っていく。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育実技を通して、創造性や表現力を感性豊かに学び、幼児教育における表現の基礎知識を習得する。幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	授業内容や発表に取り組む姿勢を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	積極的に取り組み、様々な表現方法を模索しながら進めてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	授業への取り組み方 レクレーション	授業概要の説明 保育現場での室内遊びを体験する
第3～4回目	手遊び・絵本読み聞かせ	手遊び・読み聞かせの練習を行い、発表する
第5～6回目	グループワーク	グループに分かれ、子どもができそうな遊びを考え、実践する
第7回目	戸外活動	保育現場での戸外遊びを体験する
第8回目	リズム遊び	保育現場で行われる様々なリズム遊びを体験する
第9～10回目	自己紹介カード	自己紹介カード 練習・発表
第11～12回目	手遊び・絵本読み聞かせ	手遊び・読み聞かせの練習を行い、発表する
第13回目	レクレーション	保育現場での室内遊びを体験する
第14～15回目	ペーパーサート	ペーパーサート「ねずみの嫁入り」 練習・発表
第16～17回目	指導案作成	部分実習の指導案作成について
第18～19回目	紙芝居・大型絵本	紙芝居・大型絵本で読み聞かせを行い、発表する
第20～21回目	紙皿シアター	紙皿シアター「アンパンマン」 練習・発表
第22～25回目	部分実習	折り紙製作の指導案を書き、実践する
第26～27回目	パネルシアター	パネルシアター「ピコピコテレパシー」 練習・発表
第28回目	グループワーク	グループに分かれ、子どもができそうな遊びを考え、実践する
第29～30回目	ペーパーサート	スケッチブックシアター「たまごをポン！」 練習・発表

科目名	ピアノ演習 I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佐藤 奏夢・正田 愛理	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	<p>保育として必要な音楽の基礎的な知識や技能を習得するとともに、音楽的な感性を磨き表現する能力を身に付ける。ピアノ教則本と童謡の弾き歌いを中心に、それぞれの進度に応じた曲や伴奏スタイルで指導する。</p> <p>* 実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。</p>		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	近畿大学九州短期大学指定の基礎練習曲25曲の内、歌詞のあるものについてはピアノで弾き歌いが出来る。歌詞のないものについてはピアノで演奏ができる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	音楽(声楽教本・ピアノ教本) 近畿大学九州短期大学 幼児と音楽表現記録表		
成績評価の方法・基準	ピアノ・声楽の実技の他、受講態度・学期末試験を総合的に判断する。 対面での個別指導のため、全回出席が好ましい。		
履修に当たっての留意点	授業は講義もあるが、ピアノ等の実践的な表現方法を学ぶ機会なども取り入れていく。毎回、予習・復習をおこなうこと。やむを得ず欠席した場合でも、出席者と同じ内容の課題を仕上げること。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ピアノ①	授業の進め方、テキスト説明、音価の練習
第2~5回目	ピアノ①	5指の練習、ハ長調の音階、左手のコード奏(ハ長長)
第6~8回目	ピアノ①	ちょうちょう(ハ長調)、かえるの合唱
第9~12回目	ピアノ①	バイエル48番、バイエル66番
第13~15回目	ピアノ①	むすんでひらいて(マーチ)、いとまき(マーチ)
第16~18回目	ピアノ①	うさぎとかめ(マーチ)、虫の声
第19~21回目	ピアノ①	大きな栗の木の下で、やきいもグーチーパー
第22~24回目	ピアノ①	はをみがきましょう、手をたたきましょう
第25~28回目	ピアノ①	5指の練習、ト長調の音階、左手のコード奏(ト長調)
第29~31回目	ピアノ①	ちょうちょう(ト長調・マーチ)、ビーマーチ(マーチ)
第32回目	ピアノ①	きらきらぼし(マーチ)、ト長調まとめ
第33~36回目	ピアノ①	バイエル97番
第37~40回目	ピアノ①	バイエル73番
第41~44回目	ピアノ①	バイエル78番
第45回目	ピアノ①	まとめ

科目名	保育ゼミ I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	正田 愛理	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼稚園教諭・保育士資格の取得に必要なスキルの学習とともに、多様な保育のニーズに対応できる知識・技術、社会人として幅広い実務能力を学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	学科内での学年を超えた行事を通じ、人間関係を築きコミュニケーション能力を高める。また、ボランティアや実習に向けての準備を行う。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	アクティブ・ラーニング型キャリア教育ワークブック「未来ノート」適宜指示する		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業の主体はグループワークや行事運営のため、主体的に取り組み理解を深める時間として欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	クラス運営 未来ノート第1章	自己紹介、クラス委員選出／セッション1
第3～4回目	クラス運営	個人目標製作
第5～8回目	クラス運営 未来ノート第2章	誕生表・日付表・壁面製作／自己理解セッション1・2
第9回目	クラス運営	個別面談
第10～11回目	クラス運営 未来ノート第2章	誕生会の企画 第1回目誕生会／自己理解セッション3・4
第12回目	クラス運営	スポーツフェスティバルに向けた体力づくり
第13～15回目	クラス運営 未来ノート第3章	夏季休暇前・ボランティアについて／セッション1
第16～18回目	クラス運営	オリエンテーション クラス委員選出 壁面製作
第19～22回目	学校行事	学園祭運営について・振り返り
第23～24回目	クラス運営	誕生会の企画作成 第2回目誕生会
第25回目	クラス運営 未来ノート第3章	個別面談／セッション2
第26～28回目	クラス運営	壁面製作
第29～30回目	クラス運営	誕生会の企画作成 第3回目誕生会

科目名	保育実技Ⅰ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実技	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴・佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	保育士・幼稚園教諭を目指す学生に必要とされる実技面の基礎を取得する。実習やボランティアにおける実際の幼児との活動の中で、実践力を持って活動することを目的とする。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	作品制作や遊びの実践を通じて、創造性や表現力を感性豊かに学び、幼児教育における表現の基礎知識を習得する。また、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜資料を配布する *使用する教具は適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	作品制作及び課題提出を中心に行い、受講態度を総合的に判断し評価する。ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	テーマ課題については短期間での制作となるため課題に積極的に取り組み、様々な表現手法の効果を模索しながら進めてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	概要・手遊びについて	保育実技の説明 手遊びの説明 手遊びの練習
第2~6回目	壁面製作	お誕生日表・春の壁面の製作
第5回	夏の製作	夏の製作を個別で行う
第6~9回目	自己紹介カード製作	自己紹介カードの説明 自己紹介カードの案を考え、製作を行う
第10回目	レクリエーション	集団遊びを実際に行い、楽しさを知る
第11~14回目	ペーパーサート製作	ペーパーサートの説明 「ねずみの嫁入り」
第15回目	手遊び	手遊びの復習 練習 発表
第16回目	秋の製作	秋の製作を個別で行う
第17~19回目	紙皿シアター製作	紙皿シアターの説明 「アンパンマン」
第20回目	レクリエーション	集団遊びを実際に行い、楽しさを知る
第21~25回目	パネルシアター製作	パネルシアターの説明 「ピコピコテレパシー」
第26回目	冬の製作	冬の製作を個別で行う
第27~29回目	スケッチブック シアター製作	「たまごでポン！」
第30回目	実習に向けて	実習に向けてのマナー・心構え

科目名	児童文化		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	講義と製作実習と演習を行う ・講義—児童文化とは何か、歴史を追いながら考えるとともに、現在の児童文化についての知識を深める。 ・製作実習—グループで話し合い、子ども達のために児童文化財を作る。 ・演習—グループに分かれ、製作時に作った児童文化財を使用しての部分実習を行う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	児童文化の重要性を十分に理解し、自分自身もさまざまな児童文化財に触れ、児童文化という分野の実践的な指導ができるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	児童文化 近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業概要説明	児童文化の意義や役割
第2回目	遊びとスポーツ	伝承遊び、スポーツの紹介と実践
第3回目	遊びと音楽	遊びとわらべうたの関係性
第4回目	折り紙とぬりえ	学校教育に取り入れられている児童文化財
第5回目	人形劇	人形劇の種類と人形の作り方
第6回目	お話と劇①	読み聞かせの意義と留意点
第7回目	お話と劇②	読み聞かせ・素話の練習と発表
第8回目	レポート課題	子どもにとっての遊びの重要性
第9回目	絵本と紙芝居①	絵本と紙芝居の児童文化としての特徴
第10回目	絵本と紙芝居②	絵本と紙芝居の選び方と読み方
第11回目	テレビと映画	テレビや映画が子ども達に与える影響
第12回目	おもちゃ製作①	おもちゃの歴史と種類
第13回目	おもちゃ製作②	割りばしでっぽうを作つて遊ぶ
第14回目	遊び場と施設	子どもが利用できる施設の意義と変遷
第15回目	組織と活動	児童文化に関連する活動と実態

科目名	表現の指導法 A (造形表現指導法)		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	<p>子どもの発達と造形表現に関する知識と技能を取得する。学生がそれぞれ自分の表現力を身に付け、子ども達と関わるように支援していく。様々な技法を学び、子どもの造形活動の展開に必要な専門的な知識や技術を習得する。</p> <p>*実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。</p>		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<p>様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組むことで実践的造形教育指導の習得を目指す。</p> <p>*実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。</p>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	<p>造形表現（指導法） 近畿大学九州短期大学</p> <p>*使用する教具は適宜指示する。</p>		
成績評価の方法・基準	作品製作及び課題提出を中心に行い、受講態度を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	テーマ課題については短期間での製作となるため課題に積極的に取り組み、様々な表現手法の効果を模索しながら進めてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業の概要 折り紙製作 I	授業の説明 折り紙の基本の折り方を習得し、子どもの折り紙指導の基本を学ぶ
第2回目	折り紙製作 II	折り紙、クレヨン、カラーペン等を使用し、製作
第3回目	折り紙製作 III	テーマを決めて指導案作成を行い、製作を仕上げる
第4回目	絵の具遊び I	色彩の基礎知識、幼児期の色彩環境の基本を学ぶ
第5回目	絵の具遊び II	様々な技法を学ぶ
第6回目	絵の具遊び III	好きな技法を選び指導案作成を行い、製作を仕上げる
第7回目	貼り絵 I	貼り絵の基礎知識、技法を学ぶ
第8回目	貼り絵 II	切り絵、ちぎり絵、コラージュ、シール、モザイク等の技法を選び、貼り絵製作を行う
第9回目	貼り絵 III	好きな技法を選び指導案作成を行い、製作を仕上げる
第10回目	工作 I	子どもの成長段階に合わせた工作指導の方法や留意点を学び、簡単な製作を行う
第11回目	工作 II	テーマを決めて指導案作成を行い、製作を仕上げる
第12回目	工作 III	廃材を使用し、遊べるおもちゃ製作を行う
第13回目		
第14回目	おもいで表紙製作	学んできた技法を使用し、表紙製作を行う
第15回目		

科目名	社会的養護 I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	社会的養護、児童虐待を受けた子どもや障害のある子どもなどへの支援、保護者の対応や地域の子育て支援など多様な役割が保育士に求められている。そのために必要な社会的養護の基礎知識を学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの育ちに必要なことを社会的養護の基本理念や原理から学ぶ。</li> <li>社会的養護を受ける子どもたちを理解し、支援するための基本的なことを学ぶ。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・基本保育シリーズ6 社会的養護 I 中央法規出版 社会福祉用語辞典 第9版 ミネルヴァ出版		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20%、2/3以上の出席が最低のラインとする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	受講にあたっては、テキスト、用語辞典、ノートを必ず用意すること。 欠席した場合は、そのときの授業のノートを必ず写しておくこと(コピー不可)。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	児童養護施設の事例	地域小規模児童養護施設の事例
第2回目	社会的養護の理念と概念	社会的養護の意味と基本理念
第3回目	社会的養護の原理①	家庭的養護と個別化、幼児の発達の事例
第4回目	社会的養護の原理②	発達の保障と自立支援
第5回目	社会的養護の原理③	回復をめざした支援、家族との連携・協働
第6回目	社会的養護の原理④	継続的支援と連携アプローチ、退所後の若者の事例
第7回目	社会的養護の原理⑤	ライフサイクルを見通した支援、退所後の支援の事例
第8回目	社会的養護の原理⑥	児童養護の基本原理
第9回目	施設における日常生活①	日常生活における配慮、個別的な関わりの確保
第10回目	施設における日常生活②	子どもの状態像に寄り添う、さりげない支援
第11回目	施設における日常生活③	自己決定の支援、自己領域の確保と所属感の獲得
第12回目	社会的養護における保育士等の倫理と責務①	倫理とは、対人支援における倫理と必要性
第13回目	社会的養護における保育士等の倫理と責務②	保育士等の専門職の倫理
第14回目	試験対策①	第1回～第6回の振り返り
第15回目	試験対策②	第7回～第13回の振り返り

科目名	保育の計画と評価		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	湯本 孝	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼児教育の充実と質を向上させるためには、幼児の実態や教育要領に基づきカリキュラムを編成する必要がある。そのため、本講義では、幼児の発達をふまえながら、カリキュラムマネジメントの重要性を考えていく。講義の後半には、レポートを2題作成を実施し、学習の定着度を確認する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	① 教育課程の意義を理解する ② 教育課程編成の基本原理及び方法を理解する		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	あたらしい幼児教育課程総論 同文書院 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 A4サイズのファイル		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20% 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	授業終了後には、必ず復習をし、内容理解に努めること。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業概要説明 幼児期の発達①	発達上の特質
第2回目	幼児期の発達② 教育課程の意義①	発達課題 教育課程を構成する4つの要素
第3回目	教育課程の意義②	教科主義と経験主義
第4回目	幼稚園・認定こども園 保育所の性格①	幼稚園・認定こども園・保育所それぞれの特徴
第5回目	保育の意義	代表的な教育思想と保育のあり方
第6回目	幼稚園教育要領①	幼稚園教育の基本①
第7回目	幼稚園教育要領②	幼稚園教育の基本②
第8回目	幼稚園教育要領③	レポート作成① (幼稚園教育要領について)
第9回目	幼稚園教育要領④	レポート作成② (幼稚園教育要領について)
第10回目	教育課程の実際①	目的・目標・ねらい・内容
第11回目	教育課程の実際②	教育課程の編成
第12回目	教育課程の実際③	指導計画の作成
第13回目	教育課程の実際④	レポート作成① (遊びの計画)
第14回目	教育課程の実際⑤	レポート作成② (遊びの計画)
第15回目	試験対策	定期試験対策

科目名	教育方法論		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	湯本 孝	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	保育方法の基礎的な考え方を身に付けるため、授業前半では、環境を通じた教育について学習する。授業後半では、保育形態や小学校と接続、保護者との連携をテーマとし、広く保育の方法をとらえていく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	幼児の資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	幼児教育の方法 北大路書房 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 A4サイズのファイル		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20% 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	授業終了後には、必ず復習をし、内容理解に努めること。 感染症等の状況によっては、遠隔授業として実施することがある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	講義概要説明 保育の方法的基盤①	「教育」と「保育」の定義
第2回目	保育の方法的基盤②	環境を通しての教育 遊びを通しての指導
第3回目	保育の方法的基盤③	「見える保育」と「見えない保育」
第4回目	保育の方法的基盤④	レポート作成①(「見える保育」と「見えない保育」)
第5回目	保育の方法的基盤⑤	レポート作成②(「見える保育」と「見えない保育」)
第6回目	保育の方法的基盤⑥	子どもの主体性と保育者の意図
第7回目	保育の方法的基盤⑦	育成すべき資質能力 遊びのなかで学びをはぐくむ保育
第8回目	保育の方法的基盤⑧	レポート作成①(遊びのなかでの学び)
第9回目	保育の方法的基盤⑨	レポート作成②(遊びのなかでの学び)
第10回目	さまざまな保育形態	各種保育形態の意義
第11回目	保育における評価	基本的な評価の考え方 ポートフォリオ、ドキュメンテーションによる評価
第12回目	幼稚園教育と小学校教育との連関	小学校教育につながる保育
第13回目	家庭と連携した保育	家庭機能の変化 家庭との連携
第14回目	幼稚園教育要領 改訂のポイント	今日に求められる幼稚園での教育
第15回目	試験対策	近畿大学九州短期大学科目試験対策

科目名	英会話 I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 友恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	テキスト『Happy English for Childcare』を通して、英語で基本的なコミュニケーションが取れる力を養う。保育園や幼稚園での先生と生徒、または保護者とのやり取りを想定し、日常生活において必要となる英語を周りの友達と一緒に楽しく活動しながら学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育園や幼稚園で必要となる英語に少しでも慣れる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	Happy English for Childcare 金星堂		
成績評価の方法・基準	試験85% レポート、授業態度15% 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	授業には英語習得のため積極的に参加し、発言、活動することが求められる。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業概要説明 Pre-unit	英語でコミュニケーションをとるときの基本表現
第2回目	Unit 1	挨拶、自己紹介 保育時間
第3回目	Unit 2	園内の案内 道案内
第4回目	Unit 3	今日の調子を聞く・答える表現 数字
第5回目	Unit 4	好きなもの・嫌いなものを聞く表現 英語で『かぐや姫』を読む
第6回目	Unit 5	場所を表す表現 教室内の物の場所を示す
第7回目	Unit 6	人に何かするように・しないように言う表現 英語で『桃太郎』を読む
第8回目	Unit 7	アレルギーの有無を伝える表現
第9回目	Unit 8	英語圏のジェスチャー
第10回目	Unit 11	Shall I / Will you ... ? を用いた表現と応答
第11回目	Unit 12	体調不良の園児との会話 身体の部位
第12回目	Unit 13	電話応対に便利な表現 英語で『浦島太郎』を読む
第13回目	Unit 14	お礼の表現
第14回目	試験対策	定期試験対策
第15回目	試験対策	定期試験対策

科目名	健康科学		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	南山 英之	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	健康という言葉の本当の意味を理解し、歴史的な変遷と生活や人権を通しての概念を学ぶ。また、体力と運動の面から考察し基礎的な科学的トレーニングの方法を学ぶ。 * 実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	運動が健康に及ぼす影響を理解する。 また、幼稚園教諭二種免許・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	生涯スポーツ・健康科学 近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	スポーツの概念	スポーツの概念の広がり
第2回目	スポーツの概念	スポーツの本質的特性
第3回目	社会の変化とスポーツ	余暇社会とスポーツ
第4回目	社会の変化とスポーツ	地域社会とスポーツ
第5回目	スポーツ参加の現状と課題	国民のレジャー活動とスポーツ
第6回目	スポーツ参加の現状と課題	国民スポーツの諸相
第7回目	スポーツ参加の現状と課題	国民スポーツ発展のために
第8回目	健康の概念	健康という言葉
第9回目	健康の概念	健康観の変遷
第10回目	健康の概念	WHOの「健康」定義
第11回目	健康・体力と運動	現代社会の健康阻害要因
第12回目	健康・体力と運動	身体運動と健康
第13回目	健康・体力と運動	体力の概念
第14回目	生活におけるトレーニング	運動処方
第15回目	生活におけるトレーニング	トレーニングの科学的基礎

科目名	環境		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	今日の幼児の取り巻く環境を概観し、幼児期の発達的特徴を踏まえたうえで、幼児の身近な環境とのかかわりの発達について学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①幼児を取り巻く環境と幼児の発達にとっての意義を理解する。 ②幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 ③幼児の環境とのかかわりの発達を理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	保育内容「環境」 ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 A4サイズのファイル		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20% 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	授業終了後には、必ず復習をし、内容理解に努めること。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業概要説明 領域「環境」	領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱い
第2回目	現代の幼児を取り巻く環境	環境の諸側面、幼児を取り巻く環境の変化と今日的課題
第3回目	環境とかかわる力の発達	環境とかかわりを捉える心理学視点
第4回目	乳幼児の認知的発達①	認知発達の特徴①
第5回目	乳幼児の認知的発達②	認知発達の特徴②
第6回目	数量・図形とかかわり	幼児の数量・図形への興味と理解
第7回目	文字・標識とかかわり	幼児の文字・標識への興味と理解
第8回目	自然とかかわり	幼児の自然への興味と理解
第9回目	自然とかかわり	自然体験活動
第10回目	自然とかかわり	レポート作成(身近な自然と子ども)
第11回目	情報・施設とかかわり	幼児の情報・施設への興味と理解
第12回目	環境構成と保育計画	保育者の意図と環境構成
第13回目	環境構成と保育計画	レポート作成(遊びの保育計画)
第14回目	幼稚園教育要領の変遷	領域「環境」の変遷
第15回目	試験対策	近畿大学九州短期大学科目試験対策

科目名	保育技術		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年／2年次・後期
授業時数	60時間／30時間	単位数	2単位／1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	正田 愛理・根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	ピアノ演習・保育実技においての学習補講		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	学生が自らの学習進行を把握し、弱点を克服。ピアノ演習については近大課題曲遂行。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	音楽（声楽教本・ピアノ教本）近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	授業態度や課題に取り組む姿勢を総合的に判断し、評価する。		
履修に当たっての留意点	特になし		

授業計画	内容	
第1回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：自己紹介カードへの取り組み
第2回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：自己紹介カードへの取り組み
第3回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：自己紹介カードへの取り組み
第4回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：自己紹介カードへの取り組み
第5回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：ペープサポートへの取り組み
第6回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：ペープサポートへの取り組み
第7回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：ペープサポートへの取り組み
第8回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：スケッチブックシアターへの取り組み
第9回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：スケッチブックシアターへの取り組み
第10回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：スケッチブックシアターへの取り組み
第11回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：スケッチブックシアターへの取り組み
第12回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：パネルシアターへの取り組み
第13回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：パネルシアターへの取り組み
第14回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：パネルシアターへの取り組み
第15回目	音楽：各々の進行に合わせた課題曲への取り組み	実技：パネルシアターへの取り組み

科目名	保育実習 I (保育所)		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	10日間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 ○
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学ぶことを目的とする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解する。また、自分なりの保育観や子ども観を深める。保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習園と本校指導担当教員の評価を総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	次の科目的単位を修得している学生のみ、本科目の履修を認める。 保育実習事前事後指導 I、幼児と音楽表現、教育心理学、健康（指導法）、人間関係（指導法）、造形表現（指導法）、音楽表現（指導法）、環境（指導法）、言葉（指導法）、幼児の心理学、教育原理、社会的養護 I、子ども家庭福祉、保育原理		

授業計画	テーマ	内容
1日目	配属された園から示されたテーマ	配属された園からテーマに従って、10日間の実習を行う
2日目		
3日目		
4日目		
5日目		
6日目		
7日目		
8日目		
9日目		
10日目		

科目名	保育実習 I (施設)		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期・3年次 前期
授業時数	10日間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 <input checked="" type="radio"/>
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学ぶことを目的とする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解する。また、子育て支援するために必要な知識、技術と理解力、判断力を養う。保育士資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	保育実習事前指導・保育園実習日誌 近畿大学九州短期大学 実習日誌の書き方 萌文書店 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーソナルガイド わかば社		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた保育園において実施する。なお、実習に不測の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・保育園)で協議して行う。評価は学校が定めた基準を習得しなければならない。		
履修に当たっての留意点	実習の目的をよく理解し、真剣に取り組み、実習の成果を上げる。 実習のねらい、課題を明確にする。 教材研究、指導案作成、実習日誌の作成と提出。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習 I	観察実習(諸注意事項確認・実習日誌)
第2回目	実習 I	観察実習(一日の流れ・実習日誌)
第3回目	実習 I	観察実習(一日の流れ・実習日誌)
第4回目	実習 I	観察実習(一日の流れ・実習日誌)
第5回目	実習 I	観察実習(一日の流れ・実習日誌)
第6回目	実習 II	部分実習
第7回目	実習 II	部分実習
第8回目	実習 II	部分実習
第9回目	実習 II	部分実習
第10回目	実習 II	部分実習

科目名	子ども家庭福祉		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	今日、子どもとその保護者や家庭、地域をとりまいている様々な問題を理解することが保育士に求められている。そのために必要な子ども家庭福祉の基礎知識を学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援のため、子育てや子どもの育ちについての問題を理解する。</li> <li>・児童福祉法など子ども家庭福祉のための基本知識を学ぶ。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	児童家庭福祉 第3版 ミネルヴァ出版 社会福祉用語辞典 第9版 ミネルヴァ出版		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20%、2/3以上の出席が最低のラインとする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	受講にあたっては、テキスト、用語辞典、ノートを必ず用意すること。 欠席した場合は、そのときの授業のノートを必ず写しておくこと(コピー不可)。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	少子化について①	少子化の事例
第2回目	少子化について②	少子化の現状、少子化の要因、少子化による影響
第3回目	少子化について③	少子化対策と保育
第4回目	児童福祉について①	児童福祉の概念、理念、範囲、意義
第5回目	児童福祉について②	児童福祉における保育、児童福祉の対象
第6回目	児童福祉について③	児童福祉法の概要
第7回目	児童福祉について④	児童福祉法の改正
第8回目	児童福祉について⑤	児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当等
第9回目	児童福祉について⑥	母子並びに父子及び寡婦福祉法、母子保健法
第10回目	児童福祉について⑦	児童ポルノ禁止法、児童虐待防止法、DV防止法
第11回目	児童福祉について⑧	次世代育成支援対策推進法、障害者総合支援法、子ども・子育て関連3法
第12回目	児童福祉の実施機関と専門職①	児童相談所、福祉事務所、保健所、
第13回目	児童福祉の実施機関と専門職②	児童家庭支援センター、家庭裁判所
第14回目	児童福祉の実施機関と専門職③	児童福祉の専門職
第15回目	試験対策	第1回～第14回の振り返り

科目名	保育原理		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	<p>保育の思想、歴史、制度等についての基本的事項および保育の方法や評価方法について学び、保育の本質について理解する。また、今日の保育の問題を捉え、新しい動向に対応できる視座を持つことの大切さを理解する。単に「学ぶ」という姿勢ではなく、保育者を目指したきっかけに「学び続ける」姿勢が身に付くようになってもらえればと考える。</p> <p>*実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。</p>		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育の意義、内容、方法について理解する。また、保育の現状と課題について把握する。幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	保育原理 近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	近畿大学九州短期大学科目試験の結果、受講態度、レポートを総合的に判断する。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては自分で考えて答えを見つけ出す学びなども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	保育原理とは? 幼児の思考	授業の概要説明 幼児の思考の特徴について学ぶ
第2回目	幼稚園と保育所	幼稚園と保育所の保育目的・目標を比較し、両者の共通点及び相違点を学ぶ
第3回目	保育方法の基本原理	保育方法の基本原理を学ぶ
第4回目	子どもの遊び	子どもの「遊び」の意義について学ぶ
第5回目	幼児の実態	保育者が幼児の実態を把握する際に留意すべき点を学ぶ
第6回目	レポート作成	テーマに沿ってレポート作成を行う
第7回目	幼保一元化	幼保一元化について学ぶ
第8回目	保育の歴史	保育の歴史について学ぶ
第9回目		
第10回目	児童福祉施設	児童福祉施設について学ぶ
第11回目	保育の書類	現場で使用する書類について学ぶ
第12回目	児童福祉法	児童福祉法について学ぶ
第13回目	園生活	幼稚園・保育園・こども園の生活を比べる
第14回目	レポート作成	テーマに沿ってレポート作成を行う
第15回目	試験対策	近畿大学九州短期大学科目試験対策

科目名	子どもの食と栄養		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	塚越 裕子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	栄養に関する基礎的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養摂取、集団給食、食育の重要性を理解することを目的とする。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	小児の栄養に関する基本的知識と発育・発達の関連性と重要性を理解する。また、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新保育ライブラリ 子どもを知る 子どもの食と栄養 北大路書房		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活の関係
第2回目	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
第3回目	栄養に関する基本的知識	食事摂取基準の意義とその活用
第4回目	子どもの発育発達と食生活	発育・発達と栄養・食生活
第5回目	子どもの発育発達と食生活	摂食機能の発達
第6回目	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント	妊婦のメカニズムと妊婦の食生活
第7回目	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント	妊婦期にみられるおもなトラブルと栄養・食生活
第8回目	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	乳児期の心身の特徴と食生活の関係
第9回目	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	乳児期の栄養上の問題と健康への対応
第10回目	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の特徴と食生活の関係
第11回目	学齢期・思春期の心身の発達と食生活	学齢期・思春期の心身の特徴と食生活
第12回目	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	子どもの疾患と食生活
第13回目	障がいのある子どもの食生活	障がいの特徴と食生活
第14回目	児童福祉施設における食生活と栄養	児童福祉施設の特徴と食生活
第15回目	食事の基本と内容・方法	食事の基本的考え方

科目名	子どもの保健		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高瀬 美穂	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、そして、子どもの身体的な発育・発達と保健について学ぶ。さらに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	子どもの身体発育、精神発達、疾患等の特徴を知り、健康の保持増進を図る保健活動の重要性について理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新版 よくわかる子どもの保健 ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・授業態度・レポートを総合的に判断する。		
履修に当たっての留意点	テキストに沿って授業を進めるため、テキストを持参すること。感染症等の状況によっては、遠隔授業として実施することがある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	子どもの心身の健康と保健の意義	健康の概念と健康指標～母子保健
第2回目	子どもの心身の健康と保健の意義	育児環境と精神保健～子どものトラウマとその対応
第3回目	子どもの心身の健康と保健の意義	地域精神保健活動 保健における養護と教育の一体性
第4回目	身体発育と保健	発育には原則がある～身体発育に影響する要因
第5回目	運動機能の発達と保健	新生児～学童期以降の運動機能の発達
第6回目	生理機能の発達と保健	自律神経・体温・水分代謝と発熱
第7回目	生理機能の発達と保健	循環・呼吸、心拍、血圧・消化吸收
第8回目	生理機能の発達と保健	排泄・睡眠・感覚器官・免疫
第9回目	精神機能の発達と保健	子どもの心の育ち～発達に影響する要因
第10回目	精神機能の発達と保健	第9回内容DVD
第11回目	心身の健康状態とその把握	健康状態の観察ポイント～子どもの心身の健康
第12回目	心身の健康状態とその把握	心身症～保護者との情報共有
第13回目	子どもの疾病的予防及び適切な対応	子どもの疾病的特徴～循環器疾患
第14回目	子どもの疾病的予防及び適切な対応	泌尿、生殖器疾患～整形外科疾患
第15回目	子どもの疾病的予防及び適切な対応	その他の疾患～他職種間の連携・協働

科目名	リトミックⅠ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	澤渡 彩	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	リトミックの目的は豊かで可能性あふれる人格形成を築くことである。音楽的な基礎について身体活動を通して学び、その成果を保育者として保育活動の中で発揮できるようにするとともにスキルアップにつなげていく。*実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導者資格の合格を目指す		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	幼稚園・保育園のためのリトミック指導書3・4・5 リトミック研究センター		
成績評価の方法・基準	実践授業を中心に単元毎の確認を行い検定試験を実施する。授業出席率・受講態度を総合的に判断し評価する。ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業は講義もあるが、ピアノ等の実践的な表現方法を学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	リズムⅠ	リトミックについて リトミック経験1
第2回目	リズムⅡ	リトミック経験2 強弱・テンポ・空間・アクセント 基礎的な動き① 基礎リズム
第3回目	リズムⅢ	リトミック経験3 基礎的な動き② 基礎リズム② 拍子
第4回目	リズムの演奏法Ⅰ	リズム演奏法(3歳児指導法1学期)
第5回目	ティーチングⅠ	3歳児指導法1学期
第6回目	リズムの演奏法Ⅱ	リズム演奏法(3歳児指導法2学期)
第7回目	ティーチングⅡ	3歳児指導法2学期
第8回目	リズムⅣ	リトミック経験4 基礎リズム 拍子
第9回目	ティーチングⅢ	3歳児指導法3学期
第10回目	リズムⅤ	リトミック経験5 基礎リズム 拍子
第11回目	リズムⅥ	リトミック経験6 リズムカノン リズムフレーズ
第12回目	リズムの演奏法Ⅲ	3歳児指導法3学期
第13回目	リズムの演奏法Ⅳ	リズムの演奏法
第14回目	試験	2級資格認定試験
第15回目	理論	リトミックの理論とダルクローズについて①

科目名	声楽Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	黒崎 朋子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	保育の現場で必要な「弾き歌い」をするためには、無理なく通る声で歌えることや何があっても音楽を止めない強い心が大切。2年次は楽曲分析をしながら、より音楽的に歌えるようにする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>喉に負担のない声の出し方を学び、音程感・リズム感を身に付ける</li> <li>歌詞や強弱記号に着目し、より音楽的に歌う</li> <li>「音楽表現技術 記録表」の声楽課題を大きな声で歌えるようにする</li> <li>ピアノの授業で行う弾き歌いでも自信を持って大きな声で歌えるようになる</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	音楽（声楽教本） 近畿大学九州短期大学 保育名歌ピアノ曲集 ドレミ楽譜出版社 適宜講師の用意した課題		
成績評価の方法・基準	出席率50% 授業態度50%		
履修に当たっての留意点	授業は予習・復習が必須。毎日練習することを習慣にしてください。授業内容は進度によって変更もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業説明 声を出してみよう	呼吸・発声
第2回目	演習	コールユーブンゲン18、19「ことりのうた」
第3回目	演習	コールユーブンゲン20、22「こいのぼり」
第4回目	演習	コールユーブンゲン23、25「めだかの学校」
第5回目	演習	コールユーブンゲン26、32「あめふりくまのこ」
第6回目	演習	コールユーブンゲン34 「たなばたさま」「とんぼのめがね」
第7回目	演習	コールユーブンゲン36 「山の音楽家」「あわてんぼうのサンタクロース」
第8回目	演習	コールユーブンゲン40 「豆まき」「うれしいひなまつり」
第9回目	演習	コンコーネ3「思い出のアルバム」
第10回目	演習	コンコーネ5「やぎさんゆうびん」
第11回目	演習	「バスごっこ」「線路は続くよどこまでも」
第12回目	演習	「ふしぎなポケット」「おもちゃのチャチャチャ」
第13回目	演習	子どもの歌
第14回目	演習	子どもの歌
第15回目	演習	総括

科目名	保育実技Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習・講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	保育士・幼稚園教諭を目指す学生に必要とされる実技面の基礎を取得する。実習やボランティアにおける実際の幼児との活動の中で、実践力を持って活動することを目的とする。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	作品制作や遊びの実践を通じて、創造性や表現力を感性豊かに学び、幼児教育における表現の基礎知識を習得する。また、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜資料を配布する *使用する教具は適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	作品制作及び課題提出を中心に行い、受講態度を総合的に判断し評価する。ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	テーマ課題については短期間での制作となるため課題に積極的に取り組み、様々な表現手法の効果を模索しながら進めてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	手遊び・読み聞かせ	手遊び・読み聞かせの練習 全体発表
第3～4回目	実習に向けて	実習に向けてのマナー・心構え 実習準備
第5～8回目	ペーパーサート製作	自分で作りたいものを選び、製作を行う
第9～10回目	指導案作成	製作または集団遊びの指導案を作成する
第11～15回目	パネルシアター製作	自分で作りたいものを選び、製作を行う
第16～17回目	手遊び・読み聞かせ	手遊び・読み聞かせの練習 全体発表
第18～19回目	実習に向けて	実習に向けてのマナー・心構え 実習準備
第20～21回目	指導案作成	製作または集団遊びの指導案を作成する
第21～25回目	製作	ペーパーサート等、自分で作りたいものを選び、製作を行う
第26回目	レクレーション	集団遊びを行い、人と関わる楽しさを学ぶ
第27～29回目	製作	ペーパーサート等、自分で作りたいものを選び、製作を行う
第30回目	実習に向けて	実習に向けてのマナー・心構え 実習準備

科目名	保育総合演習Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	保育士・幼稚園教諭を目指す学生に必要とされる実技面の基礎を取得する。実践力を身に付けるための細かい実技指導（演じ方や子どもに対しての言葉掛け）を行っていく。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育実技を通して、創造性や表現力を感性豊かに学び、幼児教育における表現の基礎知識を習得する。 幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜資料を配布する		
成績評価の方法・基準	授業態度や発表に取り組む姿勢を総合的に判断し、評価する。		
履修に当たっての留意点	積極的に取り組み、様々な表現方法を模索しながら進めてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	パネルシアター	パネルシアター練習・発表
第4～5回目	スケッチブックシアター	スケッチブックシアター練習・発表
第6回目	感触遊び	保育現場行われる様々な感触遊びを体験する
第7回～8回目	グループワーク	保育現場で散歩に出掛けて際の注意点などを見つけ、まとめ・発表を行う
第9回～10回目	ペーパーサート	ペーパーサート練習・発表
第11回～12回目	部分実習	各自で考えた指導案を実践する
第13回目	戸外遊び	保育現場での戸外遊びを体験する
第14回～15回目	部分実習	各自で考えた指導案を実践する
第16回～18回目	パネルシアター	パネルシアター練習・発表
第19回～20回目	紙芝居・大型絵本	紙芝居・大型絵本で読み聞かせの練習・発表
第20～21回目	部分実習	各自で考えた指導案を実践する
第22回目	レクリエーション	集団遊びを行い、人と関わる楽しさを学ぶ
第23回～25回目	部分実習	各自で考えた指導案を実践する
第26回～28回目	作品発表	各自で製作をした保育実技の練習・発表
第29回～30回目	グループワーク	園行事について調べ、学んだことをまとめ・発表

科目名	ピアノ演習Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佐藤 奏夢	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	近大ピアノ教本より年間で全45曲の課題をこなすこと。課題を通じ楽譜の読み方や音楽表現など基礎技術を習得する。また練習など努力することを身に着けてもらう		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	音楽表現技術 記録表リスト全45曲の合格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	近畿大学九州短期大学 ピアノ教本		
成績評価の方法・基準	試験10% 授業態度10% 課題に対する取り組み姿勢80%		
履修に当たっての留意点	課題の進行が遅れている者は次の授業までに練習すること。感染症等の状況によっては遠隔授業として実施することもある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	音楽表現技術 記録表リスト	1お花が笑った 2先生とお友達
第2回目	"	3ことりのうた 4こいのぼり
第3回目	"	5めだかの学校 6とけいのうた
第4回目	"	7あめふりくまのこ 8たなばたさま
第5回目	"	9うみ 10おばけなんてないさ
第6回目	"	11つき 12とんぼのめがね
第7回目	"	13山の音楽家 14どんぐりころころ
第8回目	"	15たき火 16あわてんぼうのサンタクロース
第9回目	"	17きよしこの夜 18豆まき
第10回目	"	19雪のペンキ屋さん 20うれしいひなまつり
第11回目	"	21思い出のアルバム 22一年生になったら
第12回目	"	23おべんとう 24おはなし
第13回目	"	25おかえりのうた 26ハッピーバースデイ
第14回目	"	27アイアイ 28ありさんのおはなし
第15回目	以下同	29犬のおまわりさん 30おうま 以下同45曲まで

科目名	保育ゼミⅡ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼稚園教諭・保育士資格の取得に必要なスキルの学習とともに、多様な保育のニーズに対応できる知識・技術、社会人として幅広い実務能力を学習する。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	学科内での学年を超えた行事を通じ、人間関係を築きコミュニケーション能力を高める。また、ボランティアや実習に向けての準備を行う。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率を考慮し評価する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体はグループワークや行事運営のため、主体的に取り組み理解を深める時間として欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	クラス運営 未来ノート第1章	クラス委員選出 個人目標製作／セッション1
第3～4回目	クラス運営	誕生表・日付表・壁面製作
第5～7回目	クラス運営 未来ノート第2章	誕生表・日付表・壁面製作／自己理解セッション1・2
第8～9回目	クラス運営	個別面談
第10～11回目	クラス運営 未来ノート第2章	誕生会の企画作成 第1回目誕生会／自己理解セッション3・4
第12回目	学校行事	スポーツ大会に向けた体力づくり
第13～15回目	クラス運営 未来ノート第3章	夏季休暇前・ボランティアについて／セッション1
第16～18回目	クラス運営	オリエンテーション クラス委員選出 壁面製作
第19～22回目	学校行事	学園祭模擬店運営について・振り返り
第23～24回目	クラス運営	誕生会の企画作成 第2回目誕生会
第25～26回目	クラス運営 未来ノート第3章	個別面談／セッション1
第27～28回目	クラス運営	壁面製作
第29～30回目	クラス運営	誕生会の企画作成 第3回目誕生会

科目名	子ども家庭支援論		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	家庭と何かをテーマに、家庭の本質的理解をすることを目的とする。また、現代社会における諸問題について理解を深め対応していく方法と、家庭本来の本来の機能を発揮させる方法はどのようなことを理解し、指導できる立場になれるようになることが目標である。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	子どもの育ちにとっての家庭という単位と、家庭を取り巻く社会状況を理解する。また、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	実践で役立つ子ども家庭支援論 ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	家庭支援の対象と役割	家庭支援が求められる背景と意義
第2回目	子どもと家庭	家庭と家族・家庭を取り巻く地域社会
第3回目	保育者による家庭支援	家庭支援における保育者の役割
第4回目	家庭支援の方法としての保育相談支援	保育現場に求められる家庭支援
第5回目	特別なニーズを有する家庭への支援	特別なニーズを有する家庭とは
第6回目	家庭への個別的な支援	家庭支援の展開過程
第7回目	在宅子育て家庭への支援	在宅子育て家庭への支援の対象と役割
第8回目	在宅子育て家庭への支援	特別なニーズをもつ親子への支援
第9回目	家庭支援に関わる法・制度	子ども・子育てに関わる条約、法律
第10回目	虐待家族への支援	要保護児童とその家庭に対する支援
第11回目	虐待家族への支援	ペアレント・トレーニングについて
第12回目	子どもと家庭を支える	子どもと家庭を支える専門機関と地域活動
第13回目	子どもと家庭を支援する事業	子どもと家庭を支援する事業の類型
第14回目	家庭支援や地域の子育て支援の実態	登園時の親子の観察から始まる保育相談支援の事例
第15回目	“家庭支援や地域の子育て支援の実態”	地域子育て支援センターにおけるプログラム開発

科目名	教育相談		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	塚越 祐子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	カウンセリングの基礎知識を学び、教育現場において教育者がカウンセリングマインドをもち、子ども・親・養育者に対する基本的援助の方法を学ぶことを目標とする。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	教育相談に不可欠なカウンセリングの基礎的な技法を習得する。 また、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	子育て支援カウンセリング 図書文化		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	よりよい子育て 支援のために	保護者の心を支える子育て支援の必要性 支援のためのネットワークづくり
第2回目	子育て支援に生かす カウンセリングの理論	来談者中心療法・精神分析・アドラー心理学・ユング心理学
第3回目	子育て支援に生かす カウンセリングの理論	交流分析・行動療法・論理分析・ブリーフセラピー
第4回目	子育て支援に生かす カウンセリングの理論	保育者の専門性としてのカウンセリングのスキル・コミュニケーションのスキル・カウンセリングのスキル
第5回目	日常の保護者との かかわり方	保育者の毎日と保護者との接点・事例①～②
第6回目	日常の保護者との かかわり方	保護者とのよい関係を築くために・事例③～④
第7回目	養育困難をかかえる 保護者への支援	養育困難のリスク要因とそのあらわれ方・養育困難に陥りやすい保護者への支援・虐待が疑われる家庭への支援
第8回目	保育における教育相談とは何 か	オリエンテーション
第9回目	障害のある子どもをもつ保護 者への支援	保護者との信頼関係をつくる・障害の特性を学ぶことの大切さ・障害のある子どもをもつ保護者への支援ポイント
第10回目	精神疾患の疑いのある保護者 の理解と対応	精神疾患の可能性を考えること・保護者世代にみられる精神疾患の理解と支援
第11回目	親としての成長を支える	親になるということ・共に成長する親同士の関係づくり
第12回目	子育て支援に生かす構成的グ ループエンカウンター	SGEとは?— よりよい理解のために
第13回目	子育て支援に生かす構成的グ ループエンカウンター	SGEの進め方は?—リーダーの役割、メンバーの役割・ロールプレイを通して学ぶ
第14回目	親の会へのサポートの実際	親の会の運営・子育ての仲間を作る—ピアサポートの推進
第15回目	少子化対策と子育て支援	保育者同士の関係・自己と向き合う

科目名	日本国憲法		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	松井 隆司	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	教科書やその他関係資料を用いて、まず憲法の概要を知る。その上で、人権保障がどのように実現されてきたか、日本国憲法で規定されている主要な人権とそれに関わる問題、日本国憲法の基本原理や統治機構の仕組みを学ぶ。判例や実生活の問題を通じ、実際に、どのような人権やそれに対する規制が問題となっているかも見していく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①人権思想の生まれた経緯、主要な人権とそれに関わる問題を理解する。 ②日本国憲法の意義、基本原理、統治機構を理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本国憲法 下村孝 著 有斐閣 ポケット六法		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート30%、授業態度10% ただし、出席が2/3に満たない場合、試験で60点未満の場合は単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	感染症等の状況によっては、遠隔授業を実施することがある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	日本国憲法の基本①	憲法のはじまり
第2回目	日本国憲法の基本②	同上
第3回目	私的自治と憲法	憲法と法律の違い、私人間における憲法の適用
第4回目	個人の尊重と幸福追求権	個人尊重の意義と新しい人権
第5回目	平等権	法の下の平等の意義、平等の考え方の変遷
第6回目	内心の自由と信教の自由	思想良心の自由、信教の自由と政教分離
第7回目	表現の自由	表現の自由の優位性、表現の自由の制限に関する違憲審査
第8回目	生存権	生存権の法的性格、生活保護の概要
第9回目	労働権	労働権の導入、ワークルールの基礎
第10回目	レポート対策①	レポート課題の概要説明
第11回目	憲法の基本原理	国民主権、平和主義、基本的人権の尊重
第12回目	統治機構	議会主義と権力分立
第13回目	レポート対策②	レポート課題の概要説明
第14回目	憲法改正	憲法改正の手続き、昨今の憲法に関する問題点
第15回目	試験対策	定期試験対策

科目名	リトミックⅡ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	澤渡 彩	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	リトミックの目的は豊かで可能性あふれる人格形成を築くことである。音楽的な基礎について身体活動を通して学び、その成果を保育者として保育活動の中で発揮できるようにするともにスキルアップにつなげていく。*実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	幼稚園・保育園のためのリトミック1級指導者資格の合格を目指す		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	幼稚園・保育園のためのリトミック指導書3・4・5 リトミック研究センター		
成績評価の方法・基準	実践授業を中心に単元毎の確認を行い検定試験を実施する。授業出席率・受講態度を総合的に判断し評価する。ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業は講義もあるが、ピアノ等の実践的な表現方法を学ぶ機会なども取り入れていく。感染症等の状況によっては、遠隔授業として実施することがある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ティーチングⅠ	4歳児指導法1学期
第2回目	ティーチングⅡ	4歳児指導法2学期
第3回目	リズムⅠ	リトミック経験7 リズムカノン リズムフレーズ
第4回目	リズムの演奏法Ⅰ	4歳児指導法1~2学期
第5回目	ティーチングⅢ	4歳児指導法3学期
第6回目	ティーチングⅣ	5歳児指導法1学期
第7回目	リズムⅡ	リトミック経験8 リズムカノン リズムフレーズ
第8回目	リズムの演奏法Ⅱ	4歳児指導法3学期 5歳児指導法1学期
第9回目	ティーチングⅤ	5歳児指導法2学期
第10回目	ティーチングⅥ	5歳児指導法3学期
第11回目	リズムⅢ	リトミック経験9 リズムカノン リズムフレーズ
第12回目	リズムの演奏法Ⅲ	リズムの演奏法 4歳児指導法3学期 5歳児指導法1学期
第13回目	リズムⅣ	リトミック経験10 リズムカノン リズムフレーズ
第14回目	試験	1級資格認定試験
第15回目	理論	リトミックの理論とダルクローズについて②

科目名	ビジネス能力		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	南山 英之	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	企業が求める人材には、専門的な知識を持っていることに加えて、基本的なビジネスマナーやコミュニケーションを備えていることが挙げられる。ここでは、『社会常識』、『コミュニケーション』、『ビジネスマナー』を中心に社会で働くために求められる能力を習得することを目的とする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	基本的なビジネスマナーやコミュニケーションを身に付ける。また、社会人常識マナー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	社会人常識マナー検定テキスト(全国経理教育協会) 社会人常識マナー検定過去問題集3級(全国経理教育協会)		
成績評価の方法・基準	授業中に行う小テストや平常点及び検定試験を考慮し評価する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	社会と組織	社会人の自覚・会社組織・変動する社会
第2回目	仕事と成果	目標の重要性・組織目標と個人目標
第3回目	一般知識①	政治や経済に関する基礎用語
第4回目	一般知識②	ビジネス基礎
第5回目	一般知識・ビジネス計算	ビジネス計算
第6回目	ビジネスコミュニケーション①	職場のコミュニケーション・組織と人間関係
第7回目	ビジネスコミュニケーション②	お辞儀と挨拶・基本の挨拶言葉
第8回目	社会人にふさわしい言葉遣い	敬語の種類(尊敬語・謙譲語)・職場での言葉遣い
第9回目	ビジネス文書	ビジネス文書の書き方と留意点・社内文書
第10回目	職場のマナー	出勤時から終業時・公私、機密のけじめ
第11回目	来客対応	来客への応対・受付から見送り
第12回目	電話対応	受け方の基本手順・伝言メモ
第13回目	交際業務	慶事のマナー・結婚、弔辞のマナー
第14回目	文書類の取り扱いと発送・他	文書の取り扱い・オフィス環境と事務機器
第15回目	総合演習	総合演習

科目名	教育実習Ⅰ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	10日間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 <input checked="" type="checkbox"/>
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 <input checked="" type="checkbox"/>
科目概要	本科目は、幼稚園や認定こども園(幼保連携型および幼稚園型)で、10日間の実習を行い、学校教育を体験的・総合的に理解することを目的としている。3年次に行われる教育実習Ⅱと有機的なつながりを持てるよう、実践を通して自身の課題を明確にする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①子どもの発達特性について知る。 ②幼稚園教諭の職務内容について知る。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	実習園と本校指導担当教員の評価を総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	次の科目の単位を修得している学生のみ、本科目の履修を認める。 教育実習事前事後指導、幼児と音楽表現、言葉(指導法)、人間関係(指導法)、音楽表現(指導法)、造形表現(指導法)、健康(指導法)、劇遊び(指導法)、環境(指導法)、教育心理学、幼児の心理学、教育課程総論、教育原理、教育方法論、教職概論		

授業計画	テーマ	内容
1日目	配属された園から示されたテーマ	配属された園から示されたテーマに従って、10日間の実習を行う
2日目		
3日目		
4日目		
5日目		
6日目		
7日目		
8日目		
9日目		
10日目		

科目名	乳児保育 I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	正田 愛理	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	3歳未満児の年齢区分における一般的な「成長と発達」を理解し、子ども1人ひとりに対応できる保育能力を習得することを目的とする。 *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解し、保護者や関係機関との連携について学ぶ。 また、幼稚園二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	はじめて学ぶ 乳児保育 同文書院		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、適宜演習問題を取り入れる。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Lesson 1・2	乳児保育はなぜ必要か 乳児保育の成り立ち
第2回目	Lesson 3	子ども子育て新支援制度
第3回目	Lesson 4	知っておきたい法律いろいろ
第4回目	レポート作成	テーマに沿ってレポート作成を行う
第5回目	Lesson 5	保育所保育指針
第6回目	Lesson 6・7	保育所保育指針における乳児のポイント
第7回目	Lesson 8	乳児のこころの発達
第8回目	Lesson 9	乳児のことばの発達
第9回目	Lesson 10	乳児のからだの発達
第10回目	Lesson 11	保育環境の衛生管理
第11回目	Lesson 12	乳児保育における安全管理①
第12回目	Lesson 13	乳児保育における安全管理②
第13回目	Lesson 14	連絡帳の書き方
第14回目	レポート作成	テーマに沿ってレポート作成を行う
第15回目	試験対策	期末試験対策

科目名	幼児への特別な支援		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	障害をもつ子どもの保育や、その家庭の支援のために、それぞれの障害についての基本的な知識と、支援の基本について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児保育について、基本的な理解をもつための知識を学ぶ。</li> <li>・それぞれの障害の特性と支援の基本知識を学ぶ。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	よくわかる障害児保育 第2版 ミネルヴァ出版 社会福祉用語辞典 第9版 ミネルヴァ出版		
成績評価の方法・基準	試験60%、レポート20%、授業態度20%、2/3以上の出席が最低のラインとする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点	受講にあたっては、テキスト、用語辞典、ノートを必ず用意すること。 欠席した場合は、そのときの授業のノートを必ず写しておくこと(コピー不可)。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	障害児施設の児童	肢体不自由児施設の事例
第2回目	インクルーシブ保育	インクルーシブ保育の意義と課題
第3回目	知的障害児の特徴と支援①	知的障害児の事例
第4回目	知的障害児の特徴と支援②	知的障害児の特徴
第5回目	知的障害児の特徴と支援③	知的障害児の支援のポイント
第6回目	知的障害児の特徴と支援④	保育現場における知的障害児の支援
第7回目	自閉症児の特徴と支援①	自閉症児の事例
第8回目	自閉症児の特徴と支援②	自閉症児の特徴
第9回目	自閉症児の特徴と支援③	自閉症児の支援のポイント
第10回目	自閉症児の特徴と支援④	保育現場における自閉症児の支援
第11回目	ADHD児の特徴と支援①	ADHD児の事例
第12回目	ADHD児の特徴と支援②	ADHD児の特徴
第13回目	ADHDの特徴と支援③	ADHD児の支援のポイント
第14回目	ADHDの特徴と支援④	保育現場におけるADHD児の支援
第15回目	試験対策	第1回～第14回の振り返り

科目名	保育の心理学		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	西垣 英恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	私たちが生まれ死にいたるまでどのように育ち育てられるのかということについて発達心理学の知見に基づいて概観する。さらに人においてある程度共通した成長の道筋を理解するとともに、その成長の道筋の多様さについて検討する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	今現在の自分自身や抱える課題と今後の自分自身が歩むかもしれない道筋について考える。また人の育ちの多様性を知ることによって、自分とは異なる他者を理解する手がかりを得る。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	実践に活かす保育の心理学 ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。ただし、2/3以上の出席を必須とする。		
履修に当たっての留意点	特になし		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	発達心理学とは何か	発達の概念と研究法
第2回目	妊娠期	妊娠と胎児期の発達
第3回目	乳児期①	新生児・乳児の知覚・運動
第4回目	乳児期②	乳幼児の運動・アタッチメント
第5回目	乳児期③	乳幼児の社会性発達①
第6回目	乳児期④	乳幼児の認知発達
第7回目	幼児期①	乳幼児の言葉の発達
第8回目	幼児期②	乳幼児の自己・情動
第9回目	幼児期③	乳幼児の社会性発達②
第10回目	児童期の発達	児童期の発達
第11回目	青年期の生活	思春期・青年期の発達
第12回目	成人期の生活①	青年期・成人期(若年)の発達
第13回目	成人期の生活②	成人期(中年)の発達
第14回目	老年期の生活	老年期の発達
第15回目	多様な発達	発達障害・LGBTQなど

科目名	子ども家庭支援の心理学		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	本教科では、乳幼児期から老年期にわたってどのように一人の人間が発達していくのか生涯発達の視点から学ぶとともに、子どもの成長に大きな影響を与える家族・家庭についても心理・社会的な視点から学習する。また、発達障害や子どもの心の諸問題についても扱う。授業は基本的に講義形式で行ない、適宜グループでのディスカッションを行い、双方向のコミュニケーションなども取りながら進めていく。□		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①生涯発達心理学の基礎的な用語や概念を説明できる。②家庭・家族の意義や機能、家族関係に関する重要な概念を説明できる。③子育て家庭を取り巻く社会的な課題を説明できる。④子どもにおける精神保健の諸問題を説明できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・基本保育シリーズ9子ども家庭支援の心理学 中央法規出版 授業時に適宜資料を配布、紹介する。		
成績評価の方法・基準	出席（20%）、試験（30%）、レポート（20%）、授業参加態度（30%） レポートは年に二回実施する。内容・期限等については授業で提示する。		
履修に当たっての留意点	授業で配布した資料はバインダー等で整理し毎回持参すること。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	乳児期の発達	オリエンテーション/生涯発達/新生児・乳児期の運動・認知・コミュニケーションの発達/原始反射/二人的アプローチ
第2回目	幼児期の発達	初期経験の重要性/遊び/認知・言語・社会性・自我の発達/相乘的相互作用モデル/発達精神病理学/レジリエンス
第3回目	学童期の発達	学童期の認知・社会性・自己の発達/学童期の教育上の諸問題とその支援
第4回目	青年期の発達	思春期/身体的・認知・自己の発達/対人関係の変化/青年期の諸問題とその支援
第5回目	成人期・中年期の発達	成人期・中年期の心理社会的課題/中年期危機/職業に関するキャリア発達/結婚と子育て/家庭における課題
第6回目	高齢期の発達	高齢期の心理社会的課題/加齢の影響/認知症/高齢者の支援
第7回目	家庭・家族の意義と機能	家族の定義・形態・機能/家族の個別性・多様性/家庭を支援するための態度
第8回目	家族関係・親子関係	家族ライフサイクル論/家族システム論/円環的因果律/アタッチメント/ジェノグラム/家族・親子の支援
第9回目	子育て経験と親の育ち	妊娠・出産・子育てに関する心理/産後うつ/ソーシャルネットワーク/ママ友/様々な子育て支援のあり方
第10回目	子育ての社会的状況	晚婚化・非婚化/要保護児童/社会的養護/高度生殖医療/中絶・喪失
第11回目	ライフコース 仕事・子育て	ライフコースの概念とその変化/性役割分業意識/ライフコースの視点を活かした支援
第12回目	多様な家庭とその理解	多様な家族/里親家庭/ひとり親家庭/離婚/ステップファミリー/多様な家族への支援
第13回目	特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルス/子どもや家族の障害/虐待・ネグレクト・マルトリークメント/トラウマとそのケア
第14回目	子どもの環境とその影響	子どもにとって環境/アタッチメント/友人関係/ソーシャルメディア/貧困/環境の視点を生かした支援
第15回目	子どものこころの健康	発達障害/こころと関連する諸問題/関係機関連携

科目名	保育・教職実践演習		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	これまでの実習やほかの授業での学びを活用し、総合的に保育者としての職務や専門的な知識・技術について理解を深めていく。授業はロールプレイや模擬保育を中心に行なながら、実践的に学んでいく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①保育者に求められる資質・能力を身に付ける。 ②保育者になるうえでの自己の課題を整理し、自覚する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	保育・教職実践演習　近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	レポートや受講態度等を総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	履修カルテを授業内で指定する期日までに提出すること。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	科目的趣旨および内容説明
第2回目	自己課題の整理	これまでの授業のふりかえりと課題の導き出し
第3回目	学習計画の作成	自己課題を解決するための学習計画の立案
第4回目	個別学習	学習計画をもとに、個別学習を進める
第5回目	学習内容の発表	個別学習の成果を発表する
第6回目	履修カルテによる自己評価	実習の振り返り
第7回目	実習報告会の準備	実習報告会記録用紙の作成
第8回目	実習報告会	実習のふりかえりについて発表
第9回目	ロールプレイ①	朝の会・帰りの会
第10回目	ロールプレイ②	クラス開き
第11回目	ロールプレイ③	保護者対応
第12回目	模擬保育の計画	指導計画の作成
第13回目	模擬保育の実践	指導計画をもとに模擬保育の実施
第14回目	模擬保育の評価	模擬保育をふりかえり、それぞれの課題を明確にする
第15回目	まとめ	保育者としての資質・能力の確認

科目名	保育ゼミⅢ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼稚園教諭・保育士資格の取得に必要なスキルの学習とともに、多様な保育ニーズに対応できる知識・技術、社会人として幅広い実務能力を学習する *実習・スクーリング等により内容に一部変更あり		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	学科内での学年を超えた行事を通じ、人間関係を築きコミュニケーション能力を高める。また、ボランティアや実習に向けての準備を行う。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	アクティブ・ラーニング型キャリア教育ワークブック 「未来ノート」 適宜指示する		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率を考慮し評価する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体はグループワークや行事運営のため、主体的に取り組み理解を深める時間としてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	クラス運営	クラス委員選出・個人目標製作
第2回目	クラス運営	個人面談①
第3回目	クラス運営	誕生表・壁面製作
第4回目	クラス運営	誕生表・壁面製作
第5回目	クラス運営	誕生表・壁面製作
第6回目	クラス運営	第1回誕生会の企画作成・準備
第7回目	クラス運営	第1回誕生会
第8回目	学校行事	スポーツ大会に向けた体力づくり
第9回目	学校行事	スポーツ大会に向けた体力づくり
第10回目	学校行事	学園祭の運営について
第11回目	学校行事	学校行事の振り返り
第12回目	クラス運営	壁面製作
第13回目	クラス運営	壁面製作
第14回目	クラス運営	第2回誕生会企画作成・準備
第15回目	クラス運営	第2回誕生会

科目名	保育実技Ⅲ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	「保育士・幼稚園教諭を目指す学生に必要とされる実技面の基礎を取得する。実習やボランティアにおける実際の幼児との活動の中で、実践力を持って活動することを目的とする。*実習・スクーリング等により内容に一部変更あり。」		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	作品制作や遊びの実践を通じて、創造性や表現力を感性豊かに学び、幼児教育における表現の基礎知識を習得する。 また、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜資料を配布する *使用する教具は適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	作品制作及び課題提出を中心に行い、受講態度を総合的に判断し評価する。ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	テーマ課題については短期間での制作となるため課題に積極的に取り組み、様々な表現手法の効果を模索しながら進めてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習に向けて	実習に向けてのマナー・心構え・実習準備
第2回目	製作①	自分で作りたいものを選び、製作を行う
第3回目	製作②	自分で作りたいものを選び、製作を行う
第4回目	指導案作成①	責任実習に向けての指導案作成
第5回目	指導案作成②	責任実習に向けての指導案作成・準備
第6回目	実習に向けて	実習に向けてのマナー・心構え・実習準備
第7回目	模擬保育①	責任実習に向けての指導案作成
第8回目	模擬保育②	責任実習に向けての指導案作成・準備
第9回目	実習に向けて	実習に向けてのマナー・心構え・実習準備
第10回目	製作①	ペーパーサーク等、自分で作りたいものを選び製作を行う
第11回目	製作②	ペーパーサーク等、自分で作りたいものを選び製作を行う
第12回目	製作③	ペーパーサーク等、自分で作りたいものを選び製作を行う
第13回目	製作④	ペーパーサーク等、自分で作りたいものを選び製作を行う
第14回目	保育実技①	好きな保育実技を選び、発表を行う
第15回目	保育実技②	好きな保育実技を選び、発表を行う

科目名	ピアノ演習Ⅲ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年・通年
授業時数	40時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佐藤 奏夢・正田 愛理	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	実習、就職に向けて更に弾ける曲のレパートリーを増やす。音楽的表現の更なる向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	卒業発表会でのピアノ演奏		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	授業態度 20% 課題への取り組み姿勢80%		
履修に当たっての留意点	2月の演奏会に向けて各自で決めた曲を弾けるように間に合わせる。感染症等の状況によっては遠隔授業として実施することがある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	卒業発表会	生活の歌 各自で用意した曲の練習
第2回目	以下同	以下同
第3回目	"	"
第4回目	"	"
第5回目	"	"
第6回目	"	"
第7回目	"	"
第8回目	"	"
第9回目	"	"
第10回目	"	"
第11回目	"	"
第12回目	"	"
第13回目	"	"
第14回目	"	"
第15回目	"	"

科目名	経済学		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	南山 英之	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	経済に関わる約束事や仕組みを理解し、激変する世界の動向や日本経済の動きを捉える力を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	経済記事の読み方のポイントや経済用語などを幅広く理解できるようにする。また、経済記事の読み方検定の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	生きた経済を学ぶ OIKOS—NOMOS		
成績評価の方法・基準	出席率、普段点により評価する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、検定直前には答案練習を中心に実施する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	経済記事の読み方	需要と供給
第2回目	経済記事の読み方	景気
第3回目	経済記事の読み方	インフレとデフレ
第4回目	経済記事の読み方	円高と円安
第5回目	経済記事の読み方	内外価格差と購買力平価
第6回目	経済記事の読み方	金融機関の種類と役目
第7回目	経済記事の読み方	マネーサプライ
第8回目	経済記事の読み方	日本銀行の金融政策
第9回目	経済記事の読み方	株、国債
第10回目	経済記事の読み方	求人と求職
第11回目	経済記事の読み方	バブル経済とその崩壊
第12回目	経済記事の読み方	先物取引
第13回目	経済記事の読み方	デリバティブ
第14回目	検定対策	49の景気指標
第15回目	検定対策	過去問演習

科目名	パソコンスキル演習		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	神宮 久香	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	社会ではパソコンを使った業務が必須である。この科目では、1年次で習得したパソコンのスキルをさらに発展させ、日常業務に欠かせない「Word」「Excel」「PowerPoint」「メール」などのアプリケーション操作の応用を演習を通して習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	インターネット(WWW、電子メール)の利活用、事務系ソフト(Word、Excel、PowerPoint)を利用した日常業務で使用する文書作成ができる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	保育者のためのパソコン講座		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果・受講態度・レポートを総合的に判断する。 ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体はパソコンを使用した演習になるので、課題を完成させる心構えで臨んでほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Word の応用①	進級カードの作成
第2回目	Word の応用②	遠足のお便りの作成
第3回目	Excel の応用①	行事写真購入申込書管理簿の作成
第4回目	Excel の応用②	年間行事予定表の作成
第5回目	Excel の応用③	連絡帳の作成
第6回目	Excel の応用④	保育指導計画の作成
第7回目	Excel の応用⑤	保育日誌の作成
第8回目	PowerPointの応用①	クラス紹介のスライド作成
第9回目	PowerPointの応用②	掲示物の作成
第10回目	電子メールの応用①	メール送信、受信、転送
第11回目	電子メールの応用②	打合せの日程調整
第12回目	電子メールの応用③	イベント参加を募る
第13回目	電子メールの応用④	保護者への連絡 ミス対応
第14回目	Google の応用①	ドライブ Classroom
第15回目	Google の応用②	Meet

科目名	卒業研究		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫・根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	学生自身が自分で主体的にテーマを探し、全員で創作活動を行い作品にまとめる。3年間、学習してきた総決算になるようする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	これまでフィールドワーク等で学んできた方法を応用しながら、学習してきたことの総決算となるように進め、発表できるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	担任教員が最終チェックを行い、総合的に評価する。ただし、1単位につき「4欠」を超えた場合は不可とする。		
履修に当たっての留意点	授業の主体はグループワークとし、自分たちでテーマを決定し製作・発表をする。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	概要	卒業研究の手順説明
第2回目	研究活動	研究（公演）テーマの選定
第3回目	研究活動	研究（公演）テーマの決定
第4回目	調査・研究	研究（公演）の内容・台本作り
第5回目	調査・研究	研究（公演）の内容・台本作り
第6回目	調査・研究	配役決め・台本確認・台本読み
第7回目	調査・研究	配役決め・台本確認・台本読み
第8回目	作品化	舞台作品制作
第9回目	作品化	舞台作品制作
第10回目	作品化	舞台作品制作
第11回目	作品化	衣装・舞台作品制作
第12回目	作品化	衣装・舞台作品制作
第13回目	作品化	衣装・舞台作品制作
第14回目	作品化	舞台稽古
第15回目	作品化	舞台稽古・発表練習

科目名	保育実習Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・前期
授業時数	10日間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 ○
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学ぶことを目的とする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解する。また、自分なりの保育観や子ども観を深める。保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習園と本校指導担当教員の評価を総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	次の科目的単位を修得している学生のみ、本科目の履修を認める。 保育実習事前事後指導Ⅱ、幼児と音楽表現、教育心理学、健康（指導法）、人間関係（指導法）、造形表現（指導法）、音楽表現（指導法）、環境（指導法）、言葉（指導法）、幼児の心理学、教育原理、社会的養護Ⅰ、子ども家庭福祉、保育原理、保育実習Ⅰ（保育所）		

授業計画	テーマ	内容
1日目	配属された園から示されたテーマ	配属された園からテーマに従って、10日間の実習を行う
2日目		
3日目		
4日目		
5日目		
6日目		
7日目		
8日目		
9日目		
10日目		

科目名	教育実習Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・前期
授業時数	10日間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入 <input checked="" type="checkbox"/>
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 <input checked="" type="checkbox"/>
科目概要	本科目は、幼稚園や認定こども園(幼保連携型および幼稚園型)で、10日間の実習を行い、学校教育を体験的・総合的に理解することを目的としている。2年次に行われた教育実習Ⅰの経験を生かし、指導計画の立案から実践を主体的に行う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①指導計画の立案とその実践を通して、子どもにふさわしい指導方法を理解する ②幼稚園教諭の職務内容について理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	実習園と本校指導担当教員の評価を総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	次の科目的単位を修得している学生のみ、本科目の履修を認める。 教育実習事前事後指導、幼児と音楽表現、言葉(指導法)、人間関係(指導法)、音楽表現(指導法)、造形表現(指導法)、健康(指導法)、劇遊び(指導法)、環境(指導法)、教育心理学、幼児の心理学、教育課程総論、教育原理、教育方法論、教職概論、教育実習Ⅰ		

授業計画	テーマ	内容
1日目	配属された園から示されたテーマ	配属された園から示されたテーマに従って、10日間の実習を行う
2日目		
3日目		
4日目		
5日目		
6日目		
7日目		
8日目		
9日目		
10日目		

科目名	英会話 I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 友恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	通常授業に加え、海外のクリスマスについて調べ発表し、園児のバックグラウンド文化を知る。また、英語圏のクリスマス、新年の休日の様子などに映画を通して触れる。グループワークにて英語の絵本を読み聞かせする。取り組める範囲でレポートに取り組む。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①クリスマスに関して調べ、発表する。②映画の中で気が付いた異文化について感想を述べる。③英語の絵本の読み聞かせをする。④レポートを提出する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	Happy English for Childcare 英語の絵本 スマートフォン		
成績評価の方法・基準	絵本の発表70% 映画感想10% クリスマスに関する発表10% レポート10%		
履修に当たっての留意点	積極的に活動に参加し、提出物は必ず期日までに提出する。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	Happy English for Childcare Unit 9 各国のクリスマスについて調べる。
2時限目	各国のクリスマスについて発表
3時限目	英語の絵本の読み聞かせを練習、準備
4時限目	レポートについて概要説明、準備
5時限目	映画を観て気が付いた異文化について感想を述べる。
<2日目>	
1時限目	Happy English for Childcare Unit 10 園行事予定についての会話
2時限目	英語の絵本の読み聞かせ練習、準備
3時限目	英語の絵本の読み聞かせ 発表
4時限目	レポート仕上げ、提出
5時限目	映画を観て気が付いた異文化について感想を述べる。

科目名	情報処理入門 I		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	神宮 久香	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	代表的なオフィススイートである、Word(ワープロ)・Excel(表計算)・PowerPoint(プレゼンテーション)の3つのソフトウェアの概念や利活用方法を概観し、演習を通して理解の定着を図る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	現在では、業種・職種を問わずほとんどの職場においてパソコンの利用スキルが求められる。本授業では、特に利用頻度の高い事務系ソフトの基礎的な利活用方法を、演習を通して習得することを目標とする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	総合演習70%、授業参加態度30%		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	Wordの基本操作、文字の入力、フォント設定
2時限目	段落の設定、ページレイアウトの設定、印刷
3時限目	画像(写真、クリップアート、ワードアート)の取り込みと編集
4時限目	図形描画機能の利用
5時限目	Word総合演習(チラシの作成)
<2日目>	
1時限目	Excelの基本操作、文字・セル・罫線の設定
2時限目	計算式の入力、基礎的な関数、Excel総合演習(家計簿の作成)
3時限目	PowerPointの基本操作、デザインの設定、スライドショーの利用
4時限目	アニメーションの作成
5時限目	PowerPoint総合演習(保育園案内スライド作成)

科目名	表現の指導法A（造形表現指導法）		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	演習（スクーリング）	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	子どもの発達と造形表現に関する知識と技能を取得する。各年齢に対し、言葉がけの違いなども理解し、学んでいく。実際に指導案を作成し、先生役として保育活動を行っていく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	子どもの発達段階を理解し、現場で実践できるようにしていく。その中で、伝え方の楽しさや、難しさも学び、自信へとつなげていく。事前の準備をしっかりと行い、余裕を持って取り組めるようにする。幼稚園教諭二種免許状 保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	資料は適宜配布する。 * 使用する教具は適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	受講態度を総合的に判断し評価する。課題提出等も評価の対象とする。		
履修に当たっての留意点	スクーリングのため、遅刻・早退・欠席の場合は認定不可となる。		

授業計画	内容
<1日目>	
1限目	造形表現の基本 「表現」領域のねらい及び内容の理解
2限目	「表現」領域の中で、幼児が身に付けていく内容と指導上の留意点
3限目	テーマに沿って製作を行い、その中で指導上の留意点を見つける
4限目	
5限目	部分実習指導案作成
<2日目>	
1限目	部分実習指導案作成 製作準備
2限目	部分実習を実践する①
3限目	部分実習を実践する②
4限目	部分実習を実践する③
5限目	感触遊び まとめ

科目名	児童文化		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	講義と製作実習と演習を行う ・講義ー児童文化とは何か、歴史を追いながら考えるとともに、現在の児童文化についての知識を深める。 ・製作実習ーグループで話し合い、子ども達のために児童文化財を作る。 ・演習ーグループに分かれ、製作時に作った児童文化財を使用しての部分実習を行う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	児童文化は、文化全般の中で子ども達に関わる領域の文化であり、子ども達のために作り出されたものや子ども達自身が作り出したものが、生活の中で育まれ、伝承していくものである。現在の学校教育偏重の子どもの生活の中で、学校教育にない重要な部分の学習の機会を得る児童文化の領域の存在意義は極めて大きい。この児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握し、時間の許す限り実習も行い、児童文化の分野の実践的な指導ができるようになることを目標とする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	・グループ毎に部分実習における指導案を作成する。 ・個別に部分実習の反省と、それぞれのグループの評価をする。 以上の2点を加え、総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	児童文化とは何か 児童憲章における児童文化 歴史にみる子どもの存在
2時限目	日本での児童文化の確立 現代の児童文化
3時限目	テキストの補足説明①
4時限目	テキストの補足説明②
5時限目	グループに分かれ、児童文化財の製作①
<2日目>	
1時限目	グループに分かれ、児童文化財の製作②
2時限目	グループに分かれ、児童文化財の製作③
3時限目	部分的な指導計画案作成および練習
4時限目	グループ毎の部分実習練習
5時限目	グループ毎の部分実習発表

科目名	幼児と音楽表現		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佐藤 奏夢	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	子供の音楽表現活動の場に必要なピアノの基礎的な技能の演習と弾き歌いの向上を目的とする。ピアノの基礎技能の習得を主に演習していく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①1年を通してピアノ演奏の基礎を習得。②声楽曲を通して、音程、リズムを正確に読む		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	近畿大学九州短期大学指定 音楽ピアノ教本・声楽教本		
成績評価の方法・基準	当日指定した課題を10時間内で実技試験をしていく。楽譜を正確に読み、1曲をスムーズに演奏することができるか、弾き歌いができるか、それぞれの観点から評価していく。		
履修に当たっての留意点	コロナ感染症対策により、弾き歌い、声楽はマスクを着用して行う。		

授業計画	内容	
<1日目>		
1時限目	ピアノ実技 声楽実技	
2時限目		
3時限目		
4時限目		
5時限目		↓
<2日目>		
1時限目	ピアノ実技 声楽実技	
2時限目		
3時限目		
4時限目		
5時限目		↓

科目名	子どもの理解と援助		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	演習（スクーリング）	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	西垣 英恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	本講義は、子どもの発達と学習の過程を、教育心理学の知見に基づいて広く概観する。さらには、教育心理学の知見がいかに保育の場に活かし得るかについて検討する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	主に幼児期～児童期を中心とした子どもの発達と学習の過程について考え、広く子どもの発達に関して理解を得る		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への積極的参加（出席、授業内の発言や演習、グループ討議への参加を含む） 40%</li> <li>授業日程ごとに課す課題の提出 60%</li> </ul>		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1限目	教育心理学の考え方・認知発達
2限目	社会性の発達
3限目	学びの過程の理解（1）学習・記憶・メタ認知
4限目	学びの過程の理解（2）動機付け
5限目	学びの過程の理解（3）学習指導
<2日目>	
1限目	学びの過程の理解（4）教育評価
2限目	学びあう場を支える（1）仲間との関係性
3限目	学びあう場を支える（2）教師との関係性
4限目	子どもの困難の理解と支援
5限目	保育に活かす教育心理学

科目名	健康の指導法		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	演習（スクーリング）	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	南山 英之	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼稚園教育要領および保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動遊び」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。教育学、保育学、心理学、医学の諸領域による知見を理解することにくわえ、新聞やインターネットなど情報から現代的な課題を探求することによって実践的な課題を再確認していく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育要領および保育所保育指針に示されている「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する</li> <li>「健康」に関する保育内容（①就学前段階の運動遊びの指導・援助②基本的生活習慣の形成およびその援助③健康・安全に関する保育活動）および方法を実践的に研究していくために必要な基礎的な知識・技能を獲得する。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	資料は適宜配布、必要なものは適宜指示する		
成績評価の方法・基準	受講態度を総合的に判断し評価する。課題提出等も評価の対象とする。		
履修に当たっての留意点	スクーリングのため、遅刻・早退・欠席の場合は認定不可となる。		

授業計画	内容
<1日目>	
1限目	健康の概念、教育要領、保育所保育指針における「健康」領域
2限目	乳児の運動発達
3限目	運動遊び実践
4限目	運動あそびの指導計画作成①
5限目	運動あそびの指導計画作成②
<2日目>	
1限目	運動あそびの指導計画作成③ 活動準備
2限目	指導計画に沿って実践①
3限目	指導計画に沿って実践②
4限目	指導計画に沿って実践③
5限目	指導計画振り返り まとめ

科目名	人間関係の指導法		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	鈴木 藍	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	子どもの人間関係形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学習する。また、子どもが、単に集団にうまく適応することのみを問題にするものではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義を学ぶ。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」に関する教育・保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。</li> <li>・子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	授業への積極的参加(発表等)30% 試験70%		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	領域「人間関係」の観点
2時限目	領域「人間関係」のねらいと内容と何か
3時限目	自己の形成と他社理解
4時限目	集団における自己の発達
5時限目	社会性の発達と遊び
<2日目>	
1時限目	協力・競争・排除
2時限目	思いやりと道徳性の芽生えと集団生活に必要な規範
3時限目	子どものコミュニケーション
4時限目	保育者の役割と指導について
5時限目	まとめ

科目名	表現の指導法B(音楽表現指導法)		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	演習(スクーリング)	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	(澤渡 彩) 佐藤 奏夢	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。音楽表現の観点から幼児の発達や学びの過程を理解し、実践的な指導法を身につけるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	模擬授業の発表内容(30%)、指導計画の記述内容(20%)、その他課題の記述内容(30%)、筆記試験(20%)		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	教育要領、保育指針における領域「表現」
2時限目	幼児と音楽との関わり、幼児への指導法、保育者の指導上の留意点
3時限目	幼児の理解と評価
4時限目	音楽表現あそびの教材・情報収集
5時限目	音楽表現あそび(手あそび・歌あそび)
<2日目>	
1時限目	表現あそびの指導計画(指導案作成)
2時限目	模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り
3時限目	小学校音楽の授業につながる音楽あそび(歌かるたあそび)
4時限目	様々な素材を使った音楽あそび(音描きあそび)
5時限目	様々な素材を使った音楽あそび(音楽劇あそび)、試験

科目名	環境の指導法		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習(スクーリング)	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	子どもの発達における環境の重要性や幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解し、領域「環境」のねらいについて学習する。様々な環境にかかわる保育の内容と指導(ICT機器の活用を含む)について実践例とともに学ぶ。動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	領域「環境」のねらいを念頭に、様々な環境にかかわる保育の内容及び指導に関する知識・技術・ICT機器の活用法を取得する。子どもの発達における環境の重要性と幼稚園教育における評価、小学校の科目とのつながりについて理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	「この授業(環境)で学んだこと」という課題でレポートを後日提出(70%) +グループ発表の内容(30%)		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらいと内容、構造
2時限目	領域「環境」の内容(1~11)と指導上の留意点
3時限目	幼稚園教育における評価と領域「環境」
4時限目	領域「環境」と小学校科目とのつながり
5時限目	幼児の発達・学びを意識した領域「環境」の観点からの保育構想
<2日目>	
1時限目	領域「環境」のねらい達成に向けたICT機器の活用法
2時限目	動植物園での模擬保育に向けた指導案の作成
3時限目	動植物園での模擬保育(作成した指導案による実践、グループワーク)
4時限目	動植物園での模擬保育の振り返り
5時限目	身近な自然・身近な事象・地域社会にかかわる保育実践、試験

科目名	言葉の指導法		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	演習(スクーリング)	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	湯本 孝	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の必修科目であると共に、保育科卒業必修科目である。『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』における保育内容・言葉の「目標」「ねらい」「内容」を理解し、保育者としての子どもとの関わり方についての具体的な実践方法について検討し、実践できる力を身につけることを目指す。講義形式・グループワークを実施する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①人間にとっての言葉(言語)の役割・言語獲得の理論を理解し、説明できる。 ②子どもの言葉を育む適切な環境について理解し、保育者としての子どもとの関わり方を身につけ、実践できる。 ③保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導を実践できる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	・1日目レポート:45% ・2日目レポート:45% ・授業への参加・発言等:10%		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	人間にとって言葉とは何か
2時限目	言語獲得の諸理論－生得説／環境節・養育放棄事例における子どもの言語獲得
3時限目	保育内容・言葉を理解する視点としてコミュニケーション
4時限目	保育内容・言葉「ねらい」の理解－「目標」「内容」との関連を通して
5時限目	応答的／積極的関わり・言葉以前のコミュニケーション－「内容」の理解①
<2日目>	
1時限目	言葉を通した楽しい関わり－「内容」の理解②
2時限目	基本的信頼関係の構築－「内容」の理解③
3時限目	子どもの言葉をひきだす保育者の関わり－「内容」の理解④
4時限目	物語と子どもの表現力・文字への気づき－「内容」の理解⑤
5時限目	子どもの言葉を育む保育実践の構想と実践

科目名	劇あそび(指導法)		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	塚越 祐子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	領域「表現」を観点に、発達段階に応じた子どもの遊び(ごっこ、劇あそび)の内容と意義について学習する。伴う表現活動(歌う、演奏する、踊るなど)の演習課題を通し、感じたり、考えたり、想像したり、創造する力を養う。毎時間、復習ノートの作成を行う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現」の「ねらい」「内容」について理解する。</li> <li>・子どもの発達に即した遊びの過程を理解し、どのような援助が必要か考えることができる。</li> <li>・子どもの表現を育てる実践力と指導法を身に付ける。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	試験(70%) グループ発表(30%)		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	領域「表現」のねらいと内容
2時限目	身ぶり表現の発達
3時限目	身ぶり表現活動の発展と指導法・活動評価の考え方
4時限目	幼児の音楽表現(保育現場での音楽・リトミック)
5時限目	「劇あそび」の意義と役割
<2日目>	
1時限目	「劇あそび」における援助(イメージの実現・環境の設定・人との関わり)
2時限目	「劇あそび」の指導計画立案の要点・作成(表現あそび課題説明)
3時限目	課題の創作(グループワーク)
4時限目	グループ発表と鑑賞・振り返り
5時限目	表現を育てる保育・試験

科目名	保育内容総論		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	演習(スクーリング)	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	『保育所保育指針解説書』を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式の他、グループワークや受講生同士の議論を通して、保育実践を構築し、批判的に検討できる力の素地を培う。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育や子どもの育ちをめぐる現状と課題について説明できる。 ②保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。 ③保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。 ④子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	・1日目レポート:45% ・2日目レポート:45% ・授業への参加・発言等:10%		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	日本における子ども・子育てをめぐる現状と課題－保育の基礎知識①
2時限目	幼稚園・保育所の成立と保育方法の史的展開－保育の基礎知識②
3時限目	保育所保育の目的・役割－保育の基本原理①
4時限目	保育内容「ねらい」・「内容」の意味－保育内容の理解①
5時限目	保育の総合性とは何か－保育内容の理解②
<2日目>	
1時限目	指導計画立案の考え方・書き方の基本
2時限目	子どもの発達過程に応じた保育
3時限目	遊びと保育
4時限目	子どもの「最善の利益」とは－保育所保育をめぐる論点と議論
5時限目	小学校との接続・共生の保育

科目名	音楽表現技術		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佐藤 奏夢	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	保育現場で必要な子供の歌を中心にピアノ基礎及び、ピアノ弾き歌いの技能を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①子供の歌の弾き歌いを堂々とする。 ②複雑なリズムパターン、調性を感じながら音楽的に歌うことができる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	近畿大学九州短期大学指定 音楽ピアノ教本・声楽教本		
成績評価の方法・基準	スクーリング当日に指定した課題を10時間内で実技試験をしていく。<ピアノ実技>楽譜を正確に読み、スムーズに演奏することができるか、弾き歌いができるか、それぞれの観点から評価していく <声楽実技> 音程、リズムが正確か、フレーズ感や音楽表現を評価していく		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容	
<1日目>		
1時限目	ピアノ実技・声楽実技	
2時限目		
3時限目		
4時限目		
5時限目		
<2日目>		
1時限目	ピアノ実技・声楽実技	
2時限目		
3時限目		
4時限目		
5時限目		

科目名	幼児と造形表現		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	幼児と造形表現の関わりがどのように成長へとつながっていくのか。子ども達が表現する楽しさ、満足感や充実感をどのように味わえるのかを学ぶ。また、学生自身も表現する楽しを味わい、様々な表現を学んでいく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	授業を通して表現の大切さを学び、自分自身も感性の豊かさを体で感じていく。感じたものを子ども達に伝えていくような学びを習得する。 幼稚園教諭二種免許状 保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	資料は適宜配布、必要なものは適宜指示する		
成績評価の方法・基準	作品製作及び課題提出を中心に行い、受講態度を総合的に判断し評価する。		
履修に当たっての留意点	スクーリングのため、遅刻・早退・欠席の場合は認定不可となる。		

授業計画	内容
<1日目>	
1限目	受講内容の説明
2限目	なぜ、造形表現が必要なのか
3限目	テーマに沿って自分なりに表現する グループワーク
4限目	施設見学（美術館等）
5限目	施設見学（美術館等） まとめ
<2日目>	
1限目	遊べるおもちゃ製作①
2限目	遊べるおもちゃ製作②
3限目	決められた図形のみで絵を描いてみる 宝島の地図を描いてみる
4限目	テーマに沿って自分なりに表現する①
5限目	テーマに沿って自分なりに表現する② まとめ

科目名	幼児と健康		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1・2・3年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	近畿大学九州短期大学	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	幼児期の運動あそびを追体験することを通して、保育者として必要な運動遊びのレパートリーを増やすこととバリエーションの抜け方を理解するとともに、運動あそびの指導に必要な保育技術についても検討したい。また、運動指導の系統性に関する理論学習によって就学前体育の実践課題についても検討する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「今の時代を生きることもたち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明できる</li> <li>各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる</li> <li>運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する		
成績評価の方法・基準	実技中のグループワークへの取り組み（30%） 乳幼児期における運動あそびの意義についての記述レポート（35%） 幼児を対象とした運動あそびの指導計画（あそびの説明、指導上の留意点）の作成（35%）		
履修に当たっての留意点	遅刻・欠席・早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと		

授業計画	内容
<1日目>	
1限目	オリエンテーション アイスブレーキングゲーム
2限目	コミュニケーションゲーム
3限目	乳幼児期の運動発達と指導計画の作成について
4限目	運動あそびの指導計画に作成①
5限目	運動あそびの指導計画に作成②
<2日目>	
1限目	運動あそびの指導計画に実践①
2限目	運動あそびの指導計画に実践②
3限目	運動あそびの指導計画に実践③
4限目	運動あそびの指導計画に実践④
5限目	まとめ

科目名	障害児保育		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	障害をもつ子どもの保育のために、子どもとその家族が障害をどのように受容していくかについて、また社会が障害を受容し理解する必要について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の受容の意味と、受容の過程や受容を妨げる問題を理解する。</li> <li>・社会が障害を受容することの意味と、受容のために必要なことを理解する。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	講義内容を学生がノートにまとめる形で授業を進めるので、特にテキストは用いない。		
成績評価の方法・基準	試験80%、授業態度20%、遅刻・早退・欠席した場合は単位不認定とする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点			

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	子どもが障害をもつて生まれた親の事例
2時限目	親による障害の受容の特長、親の障害の受容の4つのパラレルなプロセス
3時限目	障害のある子の親が受けるストレス
4時限目	兄弟による障害の受容の特長、兄弟の障害の受容や適応を困難にする問題
5時限目	1時限目～4時限目の振り返り、テスト
<2日目>	
1時限目	本人の障害の受容の事例
2時限目	中途障害による場合の本人の障害の受容、価値転換の4つの側面
3時限目	先天性の障害による場合の本人の障害の受容、障害の受容の意味と捉え方
4時限目	社会の人々による障害の受容とその意味
5時限目	1時限目～4時限目の振り返り、テスト

科目名	保育実習指導 I (保育所)		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	正田 愛理・根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	これまで学習してきたことを基礎とし、実習に備えての準備を行う。実習の際、行える保育実技や部分実習の指導案作成をし、実際に先生役として保育活動を行っていく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	実習で行うことを実践し、自信へとつなげていく。事前の準備をしっかりと行い、余裕を持って実習へと取り組めるようにする。保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかば社		
成績評価の方法・基準	授業態度や模擬保育に取り組む姿勢を総合的に判断し、評価する。		
履修に当たっての留意点	特になし		

授業計画	内容
1限目	実習とは何か・実習に対する不安
2限目	実習の心構え・守秘義務・実習園の決定まで
3限目	実習生に求められるもの・オリエンテーションについて
4限目	実習日誌とは・指導案とは
5限目	実習日誌の書き方・説明
6限目	実習日誌の書き方・説明
7限目	部分実習指導案作成 部分実習準備
8限目	部分実習指導案作成 部分実習準備
9限目	責任実習にあたって
10限目	実習中におけるトラブルシューティング・実習の最後に
11限目	保育活動指導案実践 実習準備
12限目	実習園へのお礼・お礼状の書き方のポイント
13限目	保育活動指導案実践 実習準備
14限目	保育活動指導案実践 実習準備
15限目	実習園へのお礼・お礼状の書き方のポイント

科目名	保育・教職実践演習		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次・前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	佃 紫	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	これまでの実習やほかの授業での学びを活用し、総合的に保育者としての職務や専門的な知識・技術について理解を深めていく。授業はロールプレイや模擬保育を中心に行なながら、実践的に学んでいく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	①保育者に求められる資質・能力を身に付ける。 ②保育者になるうえでの自己の課題を整理し、自覚する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	保育・教職実践演習 近畿大学九州短期大学		
成績評価の方法・基準	レポートや受講態度等を総合的に評価する。		
履修に当たっての留意点	教育実習Ⅰ・Ⅱが単位習得された者のみ履修を認める。		

授業計画	内容
<1日目>	
1限目	保育者としての自己分析
2限目	保育者としての社会的使命と役割
3限目	保育者としての教育的愛情
4限目	保育・教育職の意義と職務内容
5限目	家庭・地域社会との連携
<2日目>	
1限目	子ども・保護者との信頼関係の構築
2限目	保育者に必要なコミュニケーション能力(ロールプレイ)①
3限目	保育者に必要なコミュニケーション能力(ロールプレイ)②
4限目	ロールプレイの反省会・討論・自己評価
5限目	まとめ

科目名	社会的養護Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	保育士は認可保育所以外にも、児童福祉施設や児童相談所で配置されている職種であり、社会的養護を担う専門職の一つであるので、そのために必要な社会的養護のしくみと実施体系の基本的知識を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的養護の基本的な仕組みを理解する。</li> <li>社会的養護の実施体系を理解する。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・基本保育シリーズ6 社会的養護Ⅰ 中央法規出版 社会福祉用語辞典 第9版 ミネルヴァ出版		
成績評価の方法・基準	試験80%、授業態度20%、遅刻・早退・欠席した場合は単位不認定とする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点			

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	児童相談所の事例
2時限目	児童相談所における相談援助の体系・展開
3時限目	児童養護施設退所後の若者の事例
4時限目	措置変更の問題、リービングケア、アフターケア
5時限目	1時限目～4時限目の振り返り、テスト
<2日目>	
1時限目	社会的養護の実施体系、家庭養護の事例
2時限目	家庭養護の種類
3時限目	施設養護の事例
4時限目	施設養護の種類
5時限目	1時限目～4時限目の振り返り、テスト

科目名	子どもの食と栄養		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	塚越 祐子	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	保育者として小児に適切な食事環境を提供できるよう、各時期の特性や、栄養について理解させ、調理の技能の習得を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	小児の発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食(保育所給食)、食育の重要性を理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	二見大介・高野陽編、『子どもの食と栄養』、北大路出版 2011年		
成績評価の方法・基準	受講態度やレポートから総合的に判断する。		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	乳児期の授乳栄養について
2時限目	調乳実習
3時限目	離乳栄養について
4時限目	離乳食実習
5時限目	離乳食実習
<2日目>	
1時限目	幼児期の栄養について
2時限目	幼児食実習(弁当、だしの取り方)
3時限目	幼児食実習(弁当、だしの取り方)
4時限目	小児期の食生活について(間食、食育、アレルギー対応等)
5時限目	間食、手洗いに関する実験

科目名	生涯スポーツ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	南山 英之	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	各種スポーツ(バレーボール、バドミントンなど)の技能の向上を中心目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的、風土的、社会的背景についての理解を深めたい。さらに、「生涯スポーツ」や「Sports for all」の理念を推進していく上での課題を、現代のスポーツ現象(勝利至上主義、商業主義など)を批判的に検討する中で明らかにしていきたい。 また、中核目標である「できる」ことにくわえ、「わかる」ことや「みんながうまくなること」を共通目標に設定し、グループ学習における集団的・組織的活動を重視しながら、「計画の立案一実践一総括一再計画」(保育者として指導計画を作成する際に必要な実践的な思考サイクル)を身につけてもらいたい。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができる。 子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技能を習得する。 子どもや障がい者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	必要なものは適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	毎日のまとめの感想文(35%) 実技中のグループワークへの取り組み(30%) まとめの課題レポート(35%)		
履修に当たっての留意点	遅刻、欠席、早退はいかなる理由であっても認められないため、体調管理等に十分意識をしながら臨むこと。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	オリエンテーション、アイスブレーキングゲーム
2時限目	コミュニケーションゲーム
3時限目	子どもを対象とした運動あそび①(ボール)
4時限目	子どもを対象とした運動あそび②(フラフープ、パラバルーン)
5時限目	高齢者や障がい者を対象とした運動・スポーツ(ボッチャ、風船バレー)
<2日目>	
1時限目	バレーボール①(練習と試しのゲーム)
2時限目	バレーボール②(ルール作り)
3時限目	卓球とバドミントン(練習と試しのゲーム)
4時限目	リーグ戦①(卓球)
5時限目	リーグ戦②(バドミントン)
<3日目>	
1時限目	幼児期および青年期以降における運動あそび、スポーツの意義と課題
2時限目	運動あそび、スポーツの指導案作成①(幼児期)
3時限目	運動あそび、スポーツの指導案作成②(青年期)
4時限目	運動あそび、スポーツの実践
5時限目	全体のまとめ

科目名	子育て支援		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	子どもの保護者や家庭を支援するために必要な相談援助技術の基本的知識を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の受容の意味と、受容の過程や受容を妨げる問題を理解する。</li> <li>・社会が障害を受容することの意味と、受容のために必要なことを理解する。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	講義内容を学生がノートにまとめる形で授業を進めるので、特にテキストは用いない。		
成績評価の方法・基準	試験80%、授業態度20%、遅刻・早退・欠席した場合は単位不認定とする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点			

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	相談援助技術の事例①
2時限目	地域援助技術とは、個別援助技術とは、保育と相談支援
3時限目	相談援助技術の事例②
4時限目	ケースワークの構成要素
5時限目	1時限目～4時限目の振り返り、テスト
<2日目>	
1時限目	相談援助技術の事例③
2時限目	ケースワークの原則(個別化、意図的な感情の表出、吟味された情緒的関与)
3時限目	相談援助技術の事例④
4時限目	ケースワークの原則(受容、非審判的態度、利用者の自己決定、守秘義務)
5時限目	1時限目～4時限目の振り返り、テスト

科目名	乳児保育Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	正田 愛理	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	3歳未満児における一般的な「成長と発達」を理解し、子ども一人ひとりに対応できる保育能力を習得する。また、乳児との関わり方や保育実技のとも学んでいく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	乳児の成長過程や乳児向けの保育実技を理解し学ぶ。 幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の習得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	資料は適宜配布する		
成績評価の方法・基準	受講態度を総合的に判断し評価する。課題提出等も評価の対象とする。		
履修に当たっての留意点	スクーリングのため、遅刻・早退・欠席の場合は認定不可となる。		

授業計画	内容
<1日目>	
1限目	受講内容の説明 乳児の発達について
2限目	乳児の食事について①
3限目	乳児の食事について②
4限目	乳児保育における安全管理①
5限目	乳児保育における安全管理②
<2日目>	
1限目	乳児の発達に合った遊び
2限目	乳児に適した遊びを考え、製作を行う①
3限目	乳児に適した遊びを考え、製作を行う②
4限目	完成した製作を実演・発表
5限目	振り返り まとめ

科目名	子どもの健康と安全		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次
授業時数	20時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高瀬 美穂	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	保育者として集団保育における子どもの健康や安全を守りながら療育するための支援方法について学ぶ。また、状況に応じた対応や予防法を理解し、それらを実践する力を演習を通して身につけられるように学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	(1)子どもの健康管理と子どもを取り巻く環境管理について理解する(2)子どもに多い疾病とその予防方法についてのポイントを理解する(3)子どもの体調不良時の対応、応急処置等適切に実施する(4)災害時の備えと対応方法について理解する		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	子どもの健康と安全 新・基本保育シリーズ⑯ 中央法規出版		
成績評価の方法・基準	授業態度、演習、発表への取り組みなどを総合的に判断する。		
履修に当たっての留意点	テキストに沿って授業を進めるため、テキストを持参すること。		

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	子どもの健康と保育の環境 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康
2時限目	衛生管理 事故防止および安全対策
3時限目	災害への備えと危機管理
4時限目	体調不良や傷害が発生した場合の対応
5時限目	救急処置および救急蘇生法
<2日目>	
1時限目	感染症の集団発生と予防、対応 保育における保健的対応の基本的考え方
2時限目	3歳未満児への適切な対応 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
3時限目	障害のある子どもへの適切な対応 職員間の連携・協働と組織的取り組み
4時限目	保育における保健計画および評価 子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携
5時限目	保健計画 保健だよりの作成

科目名	保育実習指導 I (施設)		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	1・3年次
授業時数	10時間	単位数	1単位
授業方法	演習(スクーリング)	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	金子 俊明	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	児童福祉施設で実習をする前に、実習をする意味や理由を理解し、実習からよく学ぶことができるため必要な基本的知識を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士を目指す者が、児童福祉施設の実習をすることの意味や理由を理解する。</li> <li>・実習からより多く、また、より深く学ぶことができるための基本的な知識を学ぶ。</li> </ul>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版 同文書院 施設実習パーカートガイド わかば社		
成績評価の方法・基準	試験80%、授業態度20%、遅刻・早退・欠席した場合は単位不認定とする。 試験で60点未満の場合は、単位不認定とする。		
履修に当たっての留意点			

授業計画	内容
<1日目>	
1時限目	児童福祉施設の実習をする意味や理由、事前学習のポイント、保育(療育・支援)の内容
2時限目	施設実習を行う上で大切なこと、実習の3つのポイント
3時限目	実習課題(目標)の設定、実習計画書
4時限目	実習における3つのステップ、実習日誌のポイント
5時限目	1時限目～4時限目の振り返り、試験
<2日目>	
1時限目	
2時限目	
3時限目	
4時限目	
5時限目	

科目名	保育実習事前事後指導Ⅱ		
学科名	保育福祉学科		
分類	必修	配当年次・学期	2・3年次
授業時数	10時間	単位数	1単位
授業方法	スクーリング	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	根岸 千鶴	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	これまで学習してきたことを復習し、実習に備えての準備を行う。実習の際、行える保育実技や責任実習の指導案作成をし、実際に先生役として保育活動を行っていく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	実習で行うことを実践し、自信へとつなげていく。事前の準備をしっかりと行い、余裕を持って実習へと取り組めるようにする。保育士資格の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド わかば社		
成績評価の方法・基準	受講態度を総合的に判断し評価する。課題提出等も評価の対象とする。		
履修に当たっての留意点	スクーリングのため、遅刻・早退・欠席の場合は認定不可となる。		

授業計画	内容
1限目	実習について オリエンテーションについて
2限目	責任実習指導案作成
3限目	責任実習準備
4限目	責任実習実践 実習準備
5限目	振り返り まとめ